

RS

2

THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re the Application of : Tohru ENOKI, et al.

Filed : Concurrently herewith

For : PATH SETUP DEVICE AND METHOD....

Serial No. : Concurrently herewith

January 4, 2001

Assistant Commissioner of Patents
Washington, D.C. 20231

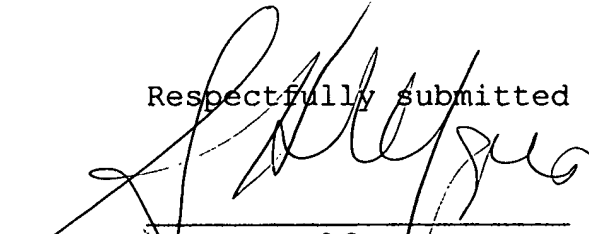
JC564 U.S. PRO
09/754802
01/04/01

SUBMISSION OF PRIORITY DOCUMENT

S I R:

Attached herewith are Japanese patent application No.
2000-110903 of April 12, 2000 whose priority has been claimed in
the present application.

Respectfully submitted



Samson Helfgott
Reg. No. 23,072

HELFGOTT & KARAS, P.C.
60th FLOOR
EMPIRE STATE BUILDING
NEW YORK, NY 10118
DOCKET NO.:FUJO 18.191
BWU:priority

Filed Via Express Mail
Rec. No.: EL522398588US
On: January 4, 2001
By: Brendy Lynn Belony
Any fee due as a result of this paper,
not covered by an enclosed check may be
charged on Deposit Acct. No. 08-1634.

日 本 国 特 許 庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

JC564 U.S. PTO
09/754802
01/04/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application:

2000年 4月12日

出 願 番 号
Application Number:

特願2000-110903

出 願 人
Applicant(s):

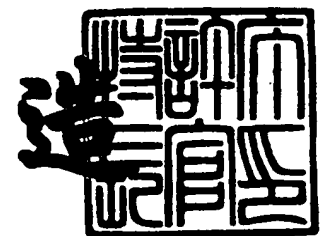
富士通株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2000年 9月29日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2000-3079680

【書類名】 特許願

【整理番号】 9952044

【提出日】 平成12年 4月12日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04L 12/54
H04L 29/06

【発明の名称】 ラベルスイッチングネットワークにおけるパス設定装置
および方法

【請求項の数】 7

【発明者】

【住所又は居所】 福岡県福岡市早良区百道浜2丁目2番1号 富士通九州
通信システム株式会社内

【氏名】 榎 徹

【発明者】

【住所又は居所】 福岡県福岡市早良区百道浜2丁目2番1号 富士通九州
通信システム株式会社内

【氏名】 青柳 好織

【特許出願人】

【識別番号】 000005223

【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】

【識別番号】 100074099

【住所又は居所】 東京都千代田区二番町8番地20 二番町ビル3F

【弁理士】

【氏名又は名称】 大菅 義之

【電話番号】 03-3238-0031

【選任した代理人】

【識別番号】 100067987

【住所又は居所】 神奈川県横浜市鶴見区北寺尾7-25-28-503

【弁理士】

【氏名又は名称】 久木元 彰

【電話番号】 045-573-3683

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 012542

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705047

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ラベルスイッチングネットワークにおけるパス設定装置および方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数のルータを含むラベルスイッチングネットワークにおいて、ラベルスイッチドパスを設定するパス設定装置であって、

ラベル要求を受け取ったとき、該ラベル要求に対応する経路と同じ経路を有する設定済みラベルスイッチドパスがあるか否かを判別する判別手段と、

前記同じ経路を有する設定済みラベルスイッチドパスがあるとき、前記ラベル要求に対して、該設定済みラベルスイッチドパスのラベルと同じラベルを割り当てるラベル割当て手段

を備えることを特徴とするパス設定装置。

【請求項 2】 前記判別手段は、前記ラベル要求に対応する経路と設定済みラベルスイッチドパスの経路の間で、入口ルータと出口ルータの組合せと、該入口ルータと該出口ルータの間のルータが一致するとき、該ラベル要求に対応する経路は該設定済みラベルスイッチドパスの経路と同じであると判断することを特徴とする請求項 1 記載のパス設定装置。

【請求項 3】 ラベルを再度割り当てる処理を行うラベル再割当て手段をさらに備え、前記ラベル割当て手段は、複数のフォワーディングイクイバレンスクラスに対して同じラベルを割り当て、該複数のフォワーディングイクイバレンスクラスのうちの 1 つに対して、前記ラベルスイッチングネットワークに変化が発生したとき、該ラベル再割当て手段は、入口ルータと出口ルータの間に割り当てられたラベルを一旦解放し、該入口ルータと新たな出口ルータの間でラベル割当てをやり直すための処理を行うことを特徴とする請求項 1 記載のパス設定装置。

【請求項 4】 前記設定済みラベルスイッチドパスのラベルと同じラベルを通知されたルータから該同じラベルの解放要求を受け取ったとき、前記同じ経路に対応するラベル要求に対して、該設定済みラベルスイッチドパスのラベルとは別のラベルを割り当てるための処理を行う別ラベル割当て手段をさらに備えることを特徴とする請求項 1 記載のパス設定装置。

【請求項 5】 同じラベルの割当てができない経路を自動的に学習し、学習した経路における同じラベルの割当てを禁止する経路学習手段をさらに備え、前記同じラベルの解放要求を受け取ったとき、前記別ラベル割当て手段は、前記同じ経路を該経路学習手段に通知し、該経路学習手段は、通知された経路を該同じラベルの割当てができない経路として学習することを特徴とする請求項 4 記載のパス設定装置。

【請求項 6】 複数のルータを含むラベルスイッチングネットワークにおいて、ラベルスイッチドパスを設定するコンピュータのためのプログラムを記録した記録媒体であって、

ラベル要求を受け取ったとき、該ラベル要求に対応する経路と同じ経路を有する設定済みラベルスイッチドパスがあるか否かを判別し、

前記同じ経路を有する設定済みラベルスイッチドパスがあるとき、前記ラベル要求に対して、該設定済みラベルスイッチドパスのラベルと同じラベルを割り当てる

処理を前記コンピュータに実行させることを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 7】 複数のルータを含むラベルスイッチングネットワークにおいて、ラベルスイッチドパスを設定するパス設定方法であって、

ラベル要求を受け取ったとき、該ラベル要求に対応する経路と同じ経路を有する設定済みラベルスイッチドパスがあるか否かを判別し、

前記同じ経路を有する設定済みラベルスイッチドパスがあるとき、前記ラベル要求に対して、該設定済みラベルスイッチドパスのラベルと同じラベルを割り当て、

前記同じ経路を有する設定済みラベルスイッチドパスがないとき、前記ラベル要求に対して、新たなラベルを割り当てる

ことを特徴とするパス設定方法。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ラベルスイッチングネットワークにおいてラベルスイッチドパス（Label Switched Path，LSP）を設定する装置および方法に関し、さらに詳しくは、複数のラベルスイッチングルータ（Label Switching Router，LSR）で構成されるIP（Internet Protocol）網において、距離ベクタ型ルーティングプロトコルを用いてLSPを設定する装置および方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

図43は、IP網における従来のIPパケット転送を示している。図43において、ルータ#1、#2、および#3によりIPパケット転送を行う場合、各ルータは、IPパケットに設定された宛先アドレスを参照して、OSI（Open Systems Interconnection）の基本参照モデル（basic reference model）の第3層において、ソフトウェアによる転送処理を行う。

【0003】

これに対して、現在、標準化が行われつつあるマルチプロトコルラベルスイッチング（Multi-Protocol Label Switching，MPLS）では、フォワーディングイクイバレンスクラス（Forwarding Equivalence Class，FEC）により指定されるIPパケットフローに対して、20ビットの固定長ラベルが割り当てられる。

【0004】

FECは、例えば、個別のアプリケーションのIPパケットフローや同一の宛先ネットワークを持つIPパケットフローのような、IPパケットのグループを指定する。そして、各ルータは、第2．5層において、ハードウェアにより、固定長ラベルを用いたスイッチングを行う。このようなラベルスイッチングネットワークにおいて、ラベルを用いてパケット転送を行うことのできるパスは、LSPと呼ばれる。

【0005】

図44は、MPLS用ルータによるIPパケット転送を示している。図44において、ルータ#1、ルータ#2、およびルータ#3は、それぞれ、入口（Ingress）LSR、中継（Transit）LSR、および出口（Egress）LSRに相当す

る。

【0006】

ここで、入口LSRとは、ラベルなしパケットにラベルを付加するLSRのことであり、LSPの入口に位置する。また、出口LSRとは、ラベル付きパケットからラベルを取り除くLSRのことであり、LSPの出口に位置する。中継LSRは、入口LSRと出口LSRの間に位置し、ラベル付きパケットを転送する。

【0007】

例えば、ルータ#1は、入力されたラベルなしIPパケット1にラベル#aを付けてルータ#2に転送し、ルータ#2は、受け取ったIPパケット2のラベルを#bに付け替えてルータ#3に転送する。そして、ルータ#3は、受け取ったIPパケット3からラベルを取り除いて、ラベルなしIPパケット4を宛先ネットワークに転送する。このように、固定長ラベルを用いたスイッチングを行うことで、IPパケットを高速に転送することができる。

【0008】

このMPLSは、ルーティングプロトコルと連携することにより、ネットワークのトポロジを認識し、自動的にLSPを設定することができる。ルータは、MPLS機能の設定を有効にするだけで高速ルーティングの恩恵を得ることができるため、この機能は益々の需要が期待されており、今後、ルータの標準機能となる見込みである。

【0009】

MPLSと連携するルーティングプロトコルとしては、OSPF (Open Shortest Path First) やルーティング情報プロトコル (Routing Information Protocol, RIP) 等が挙げられる。

【0010】

OSPFは、例えば、図45のようなネットワーク構成において、図46のような最短パスツリーを生成することにより、宛先ネットワークに対する最短ルートを計算する。図45において、A、B、C、D、E、およびFはルータを表し、a、b、c、d、e、f、およびgはルータ間のネットワークを表す。また、

各ネットワークの付随する数値は、そのネットワークの転送コストを示している。

【0011】

また、図46の最短パスツリーは、ルータA内に設けられ、ルータAから他のルータにIPパケットを転送する場合に、コストが最低となる最短ルートを保持する。例えば、ルータAからルータCへの最短ルートは、A-B-Cであり、そのコストは20である。この値は、ルータA、B間のネットワークaのコストと、ルータB、C間のネットワークcのコストを合算することで、求められる。他のルータにも、同様の最短パスツリーが設けられる。

【0012】

このOSPFとMPLSを連携させた場合、各ルータは、最短パスツリーを参照することにより、同一ルータに収容されるネットワークに対して単一のLSPを設定することができる。したがって、LSP数の増加を防ぐことが可能となる。

【0013】

一方、RIPは、距離ベクタ型ルーティングプロトコルに属する。距離ベクタ型ルーティングプロトコルは、フレーム（IPパケット）を宛先ネットワークに到達させるために転送すべき次のルータ（次ホップ）と、宛先ネットワークに到達するまでの距離（ホップ数）のみを管理するルーティングプロトコルである。

【0014】

RIPは、図45のネットワークにおいて、図47のようなルーティングテーブルを生成することにより、次ホップを決定する。図47のルーティングテーブルは、ルータA内に設けられ、宛先ネットワーク毎に、次ホップとコストを管理している。ここでは、コストとして、図45のコスト値の代わりに、ホップ数が用いられている。RIPは、その管理および実装の容易さから、現在、最も使用されているプロトコルであり、今後も継続して使用されるものと考えられる。

【0015】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述した従来のルーティングプロトコルには、次のような問題

がある。

【 0 0 1 6 】

OSPFは、その仕様の複雑さから、運用時の管理が非常に困難である。このため、現在、あまり普及していない。また、実装自体が困難であるため、MPLSとの連携においてもかなりの複雑さを伴う。

【 0 0 1 7 】

一方、RIPのような距離ベクタ型ルーティングプロトコルをMPLSと連携させた場合、入口LSRにおいて、宛先ネットワークを収容するルータを判別することができない。このため、同一の出口LSR配下のネットワークであっても、ネットワークアドレス毎にLSPが設定され、異なるラベルが割り当てられる。したがって、ルータに収容されるネットワークの数が多いと大量のラベルが使用されることになる。

【 0 0 1 8 】

ところで、MPLSでは、中継LSRにおいてラベルを付け替えるために、例えば、入力されたIPパケットのラベル（入ラベル）から、次ホップへ出力するIPパケットのラベル（出ラベル）を検索するラベル検索テーブルを用いることが考えられる。

【 0 0 1 9 】

しかし、上述のように大量のラベルが使用されると、ラベル検索テーブルのエントリが増えるため、検索処理に要する時間も増大し、ネットワークの転送能力が低下する。

【 0 0 2 0 】

本発明の課題は、ラベルスイッチングネットワーク、例えば、MPLSのようなラベルスイッチングと距離ベクタ型ルーティングプロトコルとを連携させて用いるラベルスイッチングネットワークにおいて、使用ラベル数を削減することにより転送能力を向上させるパス設定装置およびその方法を提供することである。

【 0 0 2 1 】

【課題を解決するための手段】

図1は、本発明のパス設定装置の原理図である。図1のパス設定装置は、判別

手段 1 1 およびラベル割当て手段 1 2 を備え、複数のルータを含むラベルスイッチングネットワークにおいて、L S P を設定する。

【 0 0 2 2 】

判別手段 1 1 は、ラベル要求を受け取ったとき、そのラベル要求に対応する経路と同じ経路を有する設定済み L S P があるか否かを判別する。ラベル割当て手段 1 2 は、同じ経路を有する設定済み L S P があるとき、ラベル要求に対して、その設定済み L S P のラベルと同じラベルを割り当てる。

【 0 0 2 3 】

パス設定装置は、例えば、各ルータ内に設けられ、新たなフローに対する L S P の設定時に、他のルータからラベル要求を受け取る。判別手段 1 1 は、そのラベル要求に含まれる情報から新たなフローの経路を求め、既に設定された L S P の経路を参照して、新たなフローの経路と同じ経路を有する L S P があるか否かを判別し、判別結果をラベル割当て手段 1 2 に通知する。ラベル割当て手段 1 2 は、受け取った判別結果に基づき、そのような L S P があれば、その L S P と同じラベルを割り当て、そのような L S P がなければ、新たなラベルを割り当てる。

【 0 0 2 4 】

このようなパス設定装置によれば、距離ベクタ型ルーティングプロトコルを用いた場合でも、同一ルータに収容される複数のネットワーク宛のフローに対して、同じラベルを割り当てることが可能になる。これにより、使用ラベル数が減少し、ネットワークの転送能力が向上する。

【 0 0 2 5 】

例えば、図 1 の判別手段 1 1 およびラベル割当て手段 1 2 は、それぞれ、後述する図 3 の同一経路判別処理部 2 8 およびラベル管理部 2 3 に対応する。

【 0 0 2 6 】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照しながら、本発明の実施の形態を詳細に説明する。

本実施形態においては、距離ベクタ型ルーティングプロトコルを用いるラベルスイッチングネットワークにおいて、同一経路となる複数の F E C に対して同一

ラベルを割り当てる。これにより、使用ラベル数が減少し、ネットワークの転送能力が向上する。

【 0 0 2 7 】

図 2 は、L S R において、M P L S と距離ベクタ型ルーティングプロトコルとを連携させた場合のラベル制御を示している。M P L S 処理部 2 1 は、ラベル管理部 2 3 にラベルの割当て／解放を要求し、ラベル管理部 2 3 は、要求された処理の結果を M P L S 処理部 2 1 に通知する。また、M P L S 処理部 2 1 は、スイッチ設定部 2 2 に L S P の設定を依頼し、スイッチ設定部 2 2 は、依頼された L S P を設定する。ルーティングプロトコル処理部 2 4 は、ルーティング情報を M P L S 処理部 2 1 に通知する。

【 0 0 2 8 】

図 3 は、図 2 のラベル制御において、複数の F E C に対して同一ラベルを割り当てて使用ラベル数を削減するための構成を示している。図 3 においては、経路学習部 2 5 が追加され、M P L S 処理部 2 1 には、ラベル再割当て処理部 2 6 および別ラベル割当て処理部 2 7 が設けられ、ラベル管理部 2 3 には、同一経路判別処理部 2 8 が設けられている。

【 0 0 2 9 】

新たな F E C が追加されるとき、出口 L S R がラベル要求 (Label Request) メッセージを受信すると、M P L S 処理部 2 1 は、ラベル管理部 2 3 にラベルの割当てを要求する。ラベル管理部 2 3 は、同一経路判別処理部 2 8 に、同一経路の L S P が存在するかどうかを問い合わせる。

【 0 0 3 0 】

ここで、経路とは、フレームの通り道を意味し、入口 L S R と出口 L S R の間に複数の経路が存在する場合、それぞれの経路上に L S P が存在し得る。このうち、1 つの経路上に複数の L S P が存在すれば、それらの L S P は、同一経路の L S P と呼ばれる。これに対して、別の経路上の L S P は、異経路の L S P と呼ばれる。

【 0 0 3 1 】

同一経路判別処理部 2 8 は、既に設定済みの L S P を検索して、その経路とラ

ベル要求メッセージに含まれる経路とを比較し、それらが同一経路かどうかを自動的に判別する。ここで、2つの経路が同一とは、入口L S Rと出口L S Rの組合せ（ペア）が同一であり、かつ、入口L S Rから出口L S Rに至る経路上のL S Rが同一であることを意味する。

【 0 0 3 2 】

同一経路のL S Pが存在しなければ、ラベル管理部 2 3 は、新たなラベルを割り当て、それをM P L S処理部 2 1 に通知する。同一経路のL S Pが存在すれば、ラベル管理部 2 3 は、そのL S Pと同一のラベルを割り当ててよいかどうかを、経路学習処理部 2 5 に問い合わせる。

【 0 0 3 3 】

経路学習処理部 2 5 は、同一ラベル割当て不可の経路を自動的に学習し、問い合わせられた経路が同一ラベル割当て可であるかどうかを回答する。経路学習処理部 2 5 からの回答が同一ラベル割当て可か不可かに応じて、ラベル管理部 2 3 は、同一ラベルまたは別ラベルを割り当て、それをM P L S処理部 2 1 に通知する。

【 0 0 3 4 】

M P L S処理部 2 1 は、ラベル管理部 2 3 から通知されたラベルに基づいて、L S Pの設定をスイッチ設定部 2 2 に依頼し、スイッチ設定部 2 2 は、スイッチにL S Pを設定する。また、M P L S処理部 2 1 は、ラベルマッピング (Label Mapping) メッセージによりラベルを他のL S Rに通知し、そのメッセージを受信したL S Rのスイッチ設定部 2 2 は、通知されたラベルに基づいてL S Pを設定する。

【 0 0 3 5 】

このように、同一経路判別処理部 2 8 を設けて、追加されるF E Cと同一経路のL S Pが存在するかどうかをチェックし、追加されるF E Cに、既に存在するL S Pと同一のラベルを割り当てることで、複数のF E Cに同一ラベルを割り当てることが可能となる。これにより、使用ラベル数が減少する。

【 0 0 3 6 】

また、M P L S処理部 2 1 は、同一ラベルを共有している複数のF E Cのうち

、ある1つのFECについてトポロジ変化が発生した場合に、ラベル再割当て処理部26を用いて、入口LSRからのラベル割当てを再度やり直す処理を行う。

【0037】

出口LSRにおいて、複数のFECに同一ラベルが割り当てられているときに、トポロジ変化が発生してあるFECの経路が変化した場合、ラベル再割当て処理部26は、ラベルとFECの対応関係を変更する。

【0038】

そして、MPLS処理部21は、上流のLSRへラベル取消 (Label Withdraw) メッセージを送信して、出口LSRから入口LSRまでにおけるそのFECのすべてのラベルを一旦解放し、入口LSRに対してLSP設定をやり直すように促す。これにより、入口LSRと新たな出口LSRの間で再度ラベル割当てが行われる。このように、ラベル再割当て処理部26を設けることにより、ネットワークのトポロジ変化に対応することができ、LSP再設定後のラベル共有が可能となる。

【0039】

また、MPLS処理部21は、同一ラベル割当て機能をサポートしていないLSRからラベル解放 (Label Release) メッセージを受信した場合、別ラベル割当て処理部27を用いて、同一経路に関する次回からのラベル要求メッセージに対しては、異なるラベルを割り当てる処理を行う。

【0040】

出口LSRにおいて、同一ラベルを割り当てたラベルマッピングメッセージを送信した後に、相手LSRからラベル解放メッセージを受信した場合、MPLS処理部21は、その経路上に同一ラベル割当て機能を持たないLSRが存在するものと判断する。そして、別ラベル割当て処理部27は、経路学習処理部25にその経路を通知する。

【0041】

この場合、経路学習処理部25は、通知された経路を、同一ラベル割当て不可の経路として登録し、ラベル管理部23からの問合せに対して、登録された経路は同一ラベル割当て不可であると回答する。したがって、その経路に関する次回

のラベル要求メッセージに対しては、別ラベルが割り当てられる。このように、別ラベル割当て処理部 2 7 を設けることにより、同一ラベル割当て機能をサポートしない L S R との間で L S P 設定が可能となる。

【 0 0 4 2 】

さらに、経路学習処理部 2 5 は、同一ラベル割当て機能をサポートしない L S R を自動的に学習することもできる。この場合、経路学習処理部 2 5 は、別ラベル割当て処理部 2 7 から通知された経路をツリー構造の形で保存しておく。そして、ラベル管理部 2 3 からの問合せがあったとき、このツリーを検索することで、問い合わせされた経路に同一ラベルを割り当てることができるかどうかをチェックし、結果を通知する。

【 0 0 4 3 】

このとき、経路学習処理部 2 5 は、問い合わせされた経路の少なくとも一部がツリーに登録されていれば、同一ラベル割当て不可と回答する。これにより、このような経路については、1 回目のラベル要求メッセージから異なるラベルが割り当てられるので、同一ラベル割当ての失敗を未然に防ぐことが可能となる。

【 0 0 4 4 】

図 4 は、上述したような L S R の構成図である。図 4 の L S R は、媒体ドライバ 3 1、CPU（中央処理装置）3 2、メモリ 3 3、回線インタフェース 3 4、3 6、スイッチ 3 5、検索 L S I（Large Scale Integration）3 7、および検索テーブルメモリ 3 8 を備える。

【 0 0 4 5 】

回線インタフェース 3 4 は、入力側のネットワークの回線から受信したフレームをスイッチ 3 5 に渡し、回線インタフェース 3 6 は、スイッチ 3 5 から受け取ったフレームを出力側のネットワークの回線上に送信する。

【 0 0 4 6 】

スイッチ 3 5 は、受信フレームのラベル（入ラベル）を検索 L S I 3 7 に渡し、送信フレーム用のラベル（出ラベル）を問い合わせる。そして、検索 L S I 3 7 から渡されたラベルを送信フレームに付けて、それを回線インタフェース 3 6 に渡す。

【 0 0 4 7 】

検索テーブルメモリ 3 8 は、入ラベルから出ラベルを検索するためのラベル検索テーブルを保持する。検索 L S I 3 7 は、ラベル検索テーブルを参照して、スイッチ 3 5 から受け取った入ラベルに対応する出ラベルを決定し、それをスイッチ 3 5 に渡す。

【 0 0 4 8 】

メモリ 3 3 は、例えば、ROM (read only memory)、RAM (random access memory) 等を含み、CPU 3 2 が処理に用いるプログラムとデータを格納する。CPU 3 2 は、メモリ 3 3 を利用してプログラムを実行することにより、必要な処理を行う。

【 0 0 4 9 】

この場合、図 3 の MPL S 処理部 2 1、スイッチ設定部 2 2、ラベル管理部 2 3、ルーティングプロトコル処理部 2 4、経路学習部 2 5、ラベル再割当て処理部 2 6、別ラベル割当て処理部 2 7、および同一経路判別処理部 2 8 は、プログラムにより記述されたソフトウェアコンポーネントとしてメモリ 3 3 に格納される。また、メモリ 3 3 は、出口 (Egress) 動作 L S P に対応するラベル等の情報をラベルテーブルとして保持する。出口動作 L S P については、後述することにする。

【 0 0 5 0 】

媒体ドライブ 3 1 は、可搬記録媒体 3 9 を駆動し、その記録内容にアクセスする。可搬記録媒体 3 9 としては、メモリカード、フロッピーディスク、CD-R OM (compact disk read only memory)、光ディスク、光磁気ディスク等、任意のコンピュータ読み取り可能な記録媒体が用いられる。例えば、ユーザまたは管理者は、この可搬記録媒体 3 9 に上述のプログラムとデータを格納しておき、必要に応じて、それらをメモリ 3 3 にロードして使用する。

【 0 0 5 1 】

次に、図 5 から図 3 7 までを参照しながら、図 3 および図 4 の構成に基づく L S R の動作について、より詳細に説明する。まず、図 5 から図 1 1 までは、M P L S と距離ベクタ型ルーティングプロトコルの連携における同一ラベル割当ての

例を示している。

【 0 0 5 2 】

図 5 のようなネットワーク構成において、最初にネットワーク A への経路のみが存在し、その後、ネットワーク B への経路が追加される場合を考える。この場合、LSR # 1、LSR # 2、および LSR # 3 は、それぞれ、入口 LSR、中継 LSR、および出口 LSR に相当し、LSR # 3 は、ネットワーク A、B、および C を収容している。図 6 は、このとき LSR 間でやり取りされるメッセージのシーケンスを示している。

【 0 0 5 3 】

まず、LSR # 1 は、ネットワーク A 宛のフロー (FEC) に対するラベル要求 (Label Request) メッセージを送信する。このラベル要求メッセージには、宛先ネットワークの識別情報 A と、そのメッセージが通過した LSR のリストを表すパスベクタ (Path Vector TLV) が含まれている。TLV (Type-Length-Value) は、エンコードされたデータに対応する。

【 0 0 5 4 】

LSR のリストは、例えば、IP アドレスのような LSR の識別情報のリストとして記述される。ここでは、LSR # 1、LSR # 2、および LSR # 3 の識別情報は、それぞれ、# 1、# 2、および # 3 であり、LSR # 3 が受け取るパスベクタは、# 2 - # 1 のように記述される。

【 0 0 5 5 】

ラベル要求メッセージを受信した LSR # 3 の MPLS 処理部 2 1 は、そのメッセージに含まれている LSR のリストを経路情報としてラベル管理部 2 3 に渡し、対応するフローに対してラベルの割当てを要求する。この時点では、LSR # 3 において LSP が設定されていないため、メモリ 3 3 のラベルテーブルには、ラベルは登録されていない。

【 0 0 5 6 】

経路情報を受け取ったラベル管理部 2 3 の同一経路判別処理部 2 8 は、受け取った LSR のリストの先頭に LSR # 3 を付加し、リストの向きを逆にして、経路 # 1 - # 2 - # 3 を生成する。次に、ラベルテーブルを検索し、生成された経

路と同一経路のLSPが存在しないことを確認する。そして、ラベル管理部23は、新規にラベル#aを割り当てることをMPLS処理部21に通知し、そのラベル#aをラベルテーブルに追加する。

【0057】

MPLS処理部21は、LSPの設定をスイッチ設定部22に依頼し、ラベルマッピング (Label Mapping) メッセージを、LSR#2を介してLSR#1に送信する。このラベルマッピングメッセージには、宛先ネットワークの識別情報Aと割り当てられたラベル#aが含まれている。この時点における各LSRのラベルテーブルは、図7のようになる。

【0058】

図7においては、3つのLSRのラベルテーブルがまとめて記載されているが、実際には、各LSRに対応する行の情報のみがそのLSRのラベルテーブルに格納される。ここでは、LSR#3により設定されたLSPは、LSR#3においてのみ出口動作を行い、LSR#1とLSR#2においては出口動作を行わないので、LSR#1とLSR#2のラベルテーブルには情報が格納されず、LSR#3のラベルテーブルに、ラベル#aと、対応するLSPの経路とFECが格納される。

【0059】

LSR#3のラベルテーブルにおいて、経路の欄の“#1-#2-#3”は、ラベル#aの経路が、フレームをLSR#1、LSR#2、LSR#3の順に転送する経路であることを表す。また、FECの欄の“A”は、そのFECがネットワークA宛のフローを指定していることを表す。

【0060】

また、このとき、各LSRのスイッチ設定部22は、検索テーブルメモリ38に、図8のようなラベル検索テーブルを設定する。これにより、LSPが設定される。図8においても、3つのLSRのラベル検索テーブルがまとめて記載されているが、実際には、図7と同様に、各LSRに対応する行の情報のみがそのLSRのラベル検索テーブルに格納される。

【0061】

ここでは、L S R # 1 は入口 L S R に対応するので、そのラベル検索テーブルには出ラベルのみが格納される。また、L S R # 3 は出口 L S R に対応するので、そのラベル検索テーブルには入ラベルのみが格納される。また、L S R # 2 は中継 L S R に対応するので、そのラベル検索テーブルには入ラベルと出ラベルが格納される。

【 0 0 6 2 】

この場合、ラベル # a を用いて設定された L S P は、入口 L S R # 1 では、入口 (Ingress) 動作 L S P と呼ばれ、中継 L S R # 2 では、中継 (Transit) 動作 L S P と呼ばれ、出口 L S R # 1 では、出口 (Egress) 動作 L S P と呼ばれる。

【 0 0 6 3 】

次に、L S R # 1 は、ネットワーク B への経路を追加するために、ネットワーク A 宛のフローの場合と同様に、ネットワーク B 宛のフローに対するラベル要求メッセージを送信する。そのメッセージを受信した L S R # 3 の M P L S 処理部 2 1 は、メッセージに含まれている L S R のリストをラベル管理部 2 3 に渡し、ラベルの割当てを要求する。

【 0 0 6 4 】

次に、同一経路判別処理部 2 8 は、図 7 のラベルテーブルを検索し、受け取った経路情報と同一経路の L S P が存在すると判断する。そこで、ラベル管理部 2 3 は、経路学習処理部 2 5 に、同一ラベルの割当てが可能かどうかを問い合わせる。

【 0 0 6 5 】

経路学習処理部 2 5 は、同一ラベル割当て機能を持たない L S R が途中で存在するような経路によって構成される同一ラベル割当て不可経路ツリーを保持している。そして、ラベル管理部 2 3 からの問合せに応じてこのツリーを検索し、問い合わせられた経路がツリー上に存在しなければ、同一ラベルの割当てが可能であると判断し、その旨をラベル管理部 2 3 に通知する。この検索処理の詳細については、後述することにする。

【 0 0 6 6 】

ラベル管理部 2 3 は、経路学習処理部 2 5 から同一ラベル割当て可という回答を受け取ると、ネットワーク B 宛のフローに対して、ネットワーク A 宛のフローと同一のラベル # a を割り当てることを決定する。そして、M P L S 処理部 2 1 にそのラベルを通知し、ラベルテーブルを更新する。

【 0 0 6 7 】

また、M P L S 処理部 2 1 は、宛先 B とラベル # a を含むラベルマッピングメッセージを、L S R # 2 を介して L S R # 1 に送信する。この時点における各 L S R のラベルテーブルは、図 9 のようになる。

【 0 0 6 8 】

図 9 において、L S R # 1 と L S R # 2 のラベルテーブルには変化がなく、L S R # 3 のラベルテーブルの F E C として、“B” が追加されている。これにより、2 つの異なる F E C に対して同一ラベルが割り当てられたことになる。また、新たなラベルが割り当てられなかったため、図 8 のラベル検索テーブルは変化しない。

【 0 0 6 9 】

図 1 0 は、ラベル要求メッセージを受信した M P L S 処理部 2 1 が行う処理のフローチャートである。M P L S 処理部 2 1 は、まず、ラベル管理部 2 3 にラベル割当てを要求し、割り当てられたラベルを受け取る（ステップ S 1）。そして、受け取ったラベルが新たなラベルかどうかをチェックする（ステップ S 2）。

【 0 0 7 0 】

受け取ったラベルが新たなラベルであれば、スイッチ設定部 2 2 に L S P の設定を要求し（ステップ S 3）、ラベルマッピングメッセージを送信して（ステップ S 4）、処理を終了する。また、受け取ったラベルが新たなラベルでなければ、そのままステップ S 4 の処理を行って、処理を終了する。

【 0 0 7 1 】

図 1 1 は、図 1 0 のステップ S 1 において、ラベル割当て要求を受け取ったラベル管理部 2 3 が行う処理のフローチャートである。まず、ラベル管理部 2 3 の同一経路判別処理部 2 8 は、ラベルテーブルを検索して、ラベル要求メッセージに含まれる経路と同一経路の L S P が存在するかどうかをチェックする（ステッ

プ S 1 1)。同一経路の L S P が存在すれば、次に、その L S P と同一のラベルを割り当ててよいかどうかを、経路学習処理部 2 5 に問い合わせ（ステップ S 1 2）、回答をチェックする（ステップ S 1 3）。

【 0 0 7 2 】

同一ラベル割当て可であれば、同一ラベルを割り当て（ステップ S 1 4）、そのラベルをラベルテーブルに登録する（ステップ S 1 5）。そして、登録されたラベルを M P L S 処理部 2 1 に通知して（ステップ S 1 6）、処理を終了する。

【 0 0 7 3 】

ステップ S 1 1 において、同一経路の L S P が存在しなければ、新たなラベルを割り当て（ステップ S 1 7）、ステップ S 1 5 および S 1 6 の処理を行って、処理を終了する。

【 0 0 7 4 】

次に、図 1 2 から図 2 2 までは、同一ラベル割当て時にトポロジ変化が発生した場合のラベル再割当ての例を示している。

図 1 2 のようなネットワーク構成において、ネットワーク A 宛のフローおよびネットワーク B 宛のフローに対して、既に L S P が設定され、同一ラベルが割り当てられているものとする。この場合、L S R # 1、L S R # 2、および L S R # 3 は、それぞれ、入口 L S R、中継 L S R、および出口 L S R に相当し、L S R # 3 はネットワーク A および B を収容し、L S R # 4 はネットワーク B を収容している。

【 0 0 7 5 】

続いて、L S R # 3 とネットワーク B の間で断線が発生し、ネットワーク構成が変化した場合を考える。図 1 3 は、この例において、L S R 間でやり取りされるメッセージのシーケンスを示している。

【 0 0 7 6 】

図 1 3 において、断線が発生する時点までのシーケンスは、図 6 と同様である。この時点における各 L S R のラベルテーブルおよびラベル検索テーブルは、それぞれ、図 1 4 および図 1 5 のようになる。図 1 4 の L S R # 3 のラベルテーブルにおいては、図 9 と同様に、2 つの F E C に対して同一ラベル # a が割り当て

られている。

【0077】

ここで、LSR # 3 が断線の発生を検出し、ルーティングプロトコル処理部 2 4 が経路の変化を MPLS 処理部 2 1 に通知すると、MPLS 処理部 2 1 は、ネットワーク B 宛のフローのラベルを解放するようにラベル管理部 2 3 に要求する。

【0078】

ラベル管理部 2 3 は、宛先 B をキーとして、図 1 4 のラベルテーブルを検索し、対応するラベルを解放する。このとき、複数の FEC がそのラベルの LSP を共有しているので、ラベル # a のエントリ自体は削除せずに、そのエントリの FEC の欄から B だけを削除する。そして、解放したラベル # a を MPLS 処理部 2 1 に通知する。この時点における各 LSR のラベルテーブルは、図 1 6 のようになる。

【0079】

MPLS 処理部 2 1 は、ラベルと FEC の対応関係を管理するために、ラベルーFEC テーブルをメモリ 3 3 に保持しており、ラベル管理部 2 3 によるラベル割当ての結果に基づいて、このテーブルを更新する。この時点における LSR # 3 のラベルーFEC テーブルは、図 1 7 のようになる。

【0080】

ここで、ラベル管理部 2 3 からラベル # a の解放を通知されると、MPLS 処理部 2 1 のラベル再割当て処理部 2 6 は、図 1 7 のラベルーFEC テーブルを参照して、ラベル # a のエントリの FEC の欄から B を削除する。そして、LSP を解放する必要があることを確認する。

【0081】

次に、MPLS 処理部 2 1 は、宛先 B とラベル # a を含むラベル取消 (Label Withdraw) メッセージを送信し、LSR # 1 に対して LSP の再設定を行うように促す。ラベル取消メッセージを受信した LSR # 1 は、ラベル解放 (Label Release) メッセージを送信する。

【0082】

次に、LSR#1は、ネットワークB宛のフローに対するラベル要求メッセージを送信する。このメッセージを受信したLSR#4の同一経路判別処理部28は、そのメッセージに含まれているLSRのリスト#3-#2-#1の先頭にLSR#4を付加し、リストの向きを逆にして、経路#1-#2-#3-#4を生成する。次に、ラベルテーブルを検索し、その経路と同一経路のLSPが存在しないことを確認する。そして、ラベル管理部23は、新規にラベル#bを割り当てる。

【0083】

そして、MPLS処理部21は、宛先Bとラベル#bを含むラベルマッピングメッセージを送信する。これにより、経路#1-#2-#3-#4上に新たなLSPが確立される。この時点における各LSRのラベルテーブルおよびラベル検索テーブルは、それぞれ、図18および図19のようになる。

【0084】

図20は、ルーティングプロトコル処理部24から経路変更を通知されたMPLS処理部21が行う処理のフローチャートである。MPLS処理部21は、まず、変更された経路の情報に基づいて、ラベルの解放をラベル管理部23に要求する（ステップS21）。次に、解放されたラベルに対応する情報をラベルFECテーブルから削除するように、ラベル再割当て処理部26に要求する（ステップS22）。そして、ラベル取消メッセージを送信して（ステップS23）、処理を終了する。

【0085】

図21は、図20のステップS21において、MPLS処理部21からラベル解放要求を受け取ったラベル管理部23が行う処理のフローチャートである。ラベル管理部23は、まず、ラベルテーブルを検索して（ステップS31）、解放すべきラベルが複数のFECに割り当てられているかどうかをチェックする（ステップS32）。

【0086】

そのラベルが複数のFECに割り当てられていれば、そのラベルのエントリから変更に対応するFECを削除し（ステップS33）、ラベルをMPLS処理部

21に通知して（ステップS34）、処理を終了する。また、そのラベルが単一のFECに割り当てられていれば、そのラベルのエントリをラベルテーブルから削除し（ステップS35）、ステップS34の処理を行って、処理を終了する。

【0087】

図22は、図20のステップS22において、MPLS処理部21から削除要求を受け取ったラベル再割当て処理部26が行う処理のフローチャートである。ラベル再割当て処理部26は、まず、ラベルーFECテーブルを検索して（ステップS41）、解放されたラベルが複数のFECに割り当てられているかどうかをチェックする（ステップS42）。

【0088】

そのラベルが単一のFECに割り当てられていれば、対応するLSPの解放をスイッチ設定部22に要求し（ステップS43）、そのラベルのエントリをラベルーFECテーブルから削除して（ステップS44）、処理を終了する。また、そのラベルが複数のFECに割り当てられていれば、そのラベルのエントリから変更に対応するFECを削除して（ステップS45）、処理を終了する。

【0089】

次に、図23から図28までは、経路上に同一ラベル割当て機能を持たないLSRが存在する場合のラベル割当ての例を示している。

図5に示したようなネットワーク構成において、LSR#2が同一ラベル割当て機能を持たない場合を考える。最初にネットワークAへの経路のみが存在し、既に対応するLSPが設定されているときに、ネットワークBへの経路が追加されるものとする。図23は、この例において、LSR間でやり取りされるメッセージのシーケンスを示している。

【0090】

図23において、ネットワークAに対するLSPが設定される時点までのシーケンスは、図6と同様である。この時点における各LSRのラベルテーブルおよびラベル検索テーブルは、それぞれ、図7および図8のようになる。

【0091】

次に、ネットワークB宛のフローに対するラベル要求メッセージを受信すると

、LSR#3は、図6の場合と同様に、ネットワークA宛のフローと同じラベル#aを割り当て、ラベルマッピングメッセージを送信する。この時点における各LSRのラベルテーブルは、図9のようになる。

【0092】

しかし、LSR#2は、同一ラベル割当て機能を持たないので、ラベル#aの割当てを行うことができず、宛先Bを含むラベル解放メッセージをLSR#3に送信する。そして、ラベル解放メッセージを受信したLSR#3のMPLS処理部21は、ラベル#aの経路に対して同一ラベルを割り当てることが不可能と判断し、ラベル管理部23にラベル解放を要求する。

【0093】

これを受けて、ラベル管理部23は、図7のラベルテーブルを検索して、対応するラベル#aを解放し、その経路#1-#2-#3をMPLS処理部21に通知する。次に、MPLS処理部21の別ラベル割当て処理部27は、その経路を経路学習処理部25に通知し、経路学習処理部25は、通知された経路の情報を同一ラベル割当て不可経路ツリーに追加する。

【0094】

この同一ラベル割当て不可経路ツリーは、それを保持するLSR（自ノード）をルートとして、同一ラベルを割当てることのできない経路をツリー構造で表したものである。ここでは、LSR#3をルートノードとして、図24のような同一ラベル割当て不可経路ツリーが生成される。

【0095】

その後、LSR#3は、ネットワークB宛のフローに対して別のラベルBを割り当て、再度、ラベルマッピングメッセージを送信する。こうして、各LSRには、図25のようなラベルテーブルと図26のようなラベル検索テーブルが設定される。

【0096】

図27は、ラベル解放メッセージを受信したMPLS処理部21が行う処理のフローチャートである。MPLS処理部21は、まず、ラベル解放メッセージに基づいて、ラベルの解放をラベル管理部23に要求する（ステップS51）。次

に、解放されたラベルに対応する情報をラベル－FECテーブルから削除するように、ラベル再割当て処理部 2 6 に要求する（ステップ S 5 2）。

【 0 0 9 7 】

そして、同一ラベル割当て不可経路の通知を別ラベル割当て処理部 2 7 に要求して（ステップ S 5 3）、処理を終了する。ステップ S 5 1 におけるラベル管理部 2 3 の処理は、図 2 1 と同様であり、ステップ S 5 2 におけるラベル再割当て処理部 2 6 の処理は、図 2 2 と同様である。

【 0 0 9 8 】

図 2 8 は、図 2 7 のステップ S 5 3 において、MPLS 処理部 2 1 から経路通知要求を受け取った別ラベル割当て処理部 2 7 が行う処理のフローチャートである。別ラベル割当て処理部 2 7 は、ラベル管理部 2 3 から通知された経路を登録するように、経路学習部 2 5 に要求して（ステップ S 6 1）、処理を終了する。これを受けて、経路学習部 2 5 は、その経路を同一ラベル割当て不可経路ツリーに登録する。

【 0 0 9 9 】

次に、図 2 9 から図 3 1 までは、経路上に同一ラベル割当て機能を持たない LSR が存在することを経路学習部 2 5 が学習済みである場合のラベル割当ての例を示している。

【 0 1 0 0 】

図 5 のネットワーク構成において、図 2 3 のメッセージのシーケンスにより、既にネットワーク A 宛のフローおよびネットワーク B 宛のフローに対する LSR # 1 からの LSP が設定されており、経路 # 1 - # 2 - # 3 上に同一ラベル割当て機能を持たない LSR が存在することを学習しているものとする。そして、ネットワーク C への経路が新たに追加される場合を考える。図 2 9 は、この例において、LSR 間でやり取りされるメッセージのシーケンスを示している。

【 0 1 0 1 】

LSR # 3 の MPLS 処理部 2 1 は、ネットワーク C 宛のフローに対するラベル要求メッセージを受信し、ラベル管理部 2 3 にラベル割当てを要求する。ラベル管理部 2 3 は、同一経路判別処理部 2 8 による検索の結果、ラベル要求メッセ

ージの経路 # 1 - # 2 - # 3 と同一経路の L S P が存在することを認識し、経路学習処理部 2 5 に同一ラベルを割当ててよいかどうかを問い合わせる。

【 0 1 0 2 】

経路学習処理部 2 5 は、図 2 4 の同一ラベル割当て不可経路ツリーを保持しており、このツリーをルートから順に検索して、経路 # 1 - # 2 - # 3 が登録されていることを認識する。そして、同一ラベル割当て不可であることをラベル管理部 2 3 に通知する。

【 0 1 0 3 】

その結果、ラベル管理部 2 3 は、新規にラベル # c を割り当てて、M P L S 処理部 2 1 へ通知し、ラベルテーブルを更新する。M P L S 処理部 2 1 は、L S P の設定をスイッチ設定部 2 2 に依頼し、宛先 C とラベル # c を含むラベルマッピングメッセージを送信する。こうして、各 L S R には、図 3 0 のようなラベルテーブルと図 3 1 のようなラベル検索テーブルが設定される。

【 0 1 0 4 】

次に、図 3 2 から図 3 7 までは、経路学習処理部 2 5 による同一ラベル割当て不可経路ツリーの登録／検索処理の例を示している。

図 3 2 のようなネットワーク構成において、L S R # 3 が同一ラベル割当て機能を持たない場合を考える。まず、L S R # 2 からネットワーク A 宛のフローに対する L S P を設定するとき、同一ラベルが割り当てられなかったとすると、L S R # 4 の同一ラベル割当て不可経路ツリーは、図 3 3 のようになる。図 3 3 では、L S R # 4 がルートノードに対応する。

【 0 1 0 5 】

次に、L S R # 1 - L S R # 2 - L S R # 3 - L S R # 4 間に L S P を設定するとき、ラベル要求メッセージのパスベクタに基づいて、図 3 3 の同一ラベル割当て不可経路ツリーを検索すると、経路 # 2 - # 3 - # 4 がツリーにヒットする。この場合、L S P を設定しようとしている経路と同一ラベル割当て不可経路ツリーの経路は完全には一致しないが、後者は前者の部分集合になっている。このような場合にも、経路学習処理部 2 5 は、同一ラベル割当て不可と判断する。

【 0 1 0 6 】

続いて、LSR#5-LSR#3-LSR#4間にLSPを設定するとき、その経路のうち#3-#4の部分は、同一ラベル割当て不可経路ツリーの経路と一致する。しかし、LSR#3は末端ノードではなく、子ノードLSR#2を持っているため、経路学習処理部25は、経路#5-#3-#4がツリーにヒットしたとはみなさず、同一ラベル割当て可と判断する。

【0107】

ここで、LSR#4はラベルマッピングメッセージを送信するが、LSR#3は同一ラベルを割り当てることができないため、ラベル解放メッセージを送信する。ラベル解放メッセージを受信したLSR#4の別ラベル割当て処理部27は、経路#5-#3-#4を同一ラベル割当て不可経路ツリーに登録するように、経路学習処理部25に要求する。この時点で、同一ラベル割当て不可経路ツリーは、図34のようになる。

【0108】

最後に、LSR#3-LSR#4間にLSPを設定するとき、図34の同一ラベル割当て不可経路ツリーが検索され、LSR#3まで辿ったところで、#3-#4の部分と一致する。しかし、LSR#3には2つの子ノードが存在するので、経路#3-#4が同一ラベル割当て不可と断定することはできない。そこで、経路学習処理部25は、同一ラベル割当て可と判断する。

【0109】

ここで、LSR#4はラベルマッピングメッセージを送信するが、LSR#3は同一ラベルを割り当てることができないため、再び、ラベル解放メッセージを送信する。そして、LSR#4の別ラベル割当て処理部27は、経路#3-#4を同一ラベル割当て不可経路ツリーに登録するように、経路学習処理部25に要求する。

【0110】

このとき、経路学習処理部25は、既に経路#3-#4がツリー上に存在することを知って、LSR#3の子ノードをすべて削除する。この時点で、同一ラベル割当て不可経路ツリーは、図35のようになる。

【0111】

図36は、図11のステップS12において、ラベル管理部23から問合せを受けた経路学習処理部25による同一ラベル割当て不可経路ツリーの検索処理のフローチャートである。経路学習処理部25は、まず、ツリーのルートノードをツリーポインタで指し（ステップS71）、問い合わせされた経路に対応するラベル要求メッセージのパスベクタを検索リストとして用いて、ツリーポインタで指されたノードが、検索リストの先頭と一致する子ノードを持っているかどうかをチェックする（ステップS72）。

【0112】

ツリーポインタで指されたノードがそのような子ノードを持っていれば、検索リストの先頭のLSRを削除し（ステップS73）、一致した子ノードにツリーポインタを移動する（ステップS74）。そして、検索リストが残っているかどうかをチェックし（ステップS75）。検索リストが残っていれば、ステップS72以降の処理を繰り返す。

【0113】

ステップS72において、ツリーポインタで指されたノードが、検索リストの先頭と一致する子ノードを持っていなければ、次に、そのノードが末端ノードかどうかをチェックする（ステップS76）。ここでは、子ノードをまったく持たないノードが末端ノードとみなされる。

【0114】

そして、ツリーポインタで指されたノードが末端ノードであれば、問い合わせされた経路はツリーに登録されているため、同一ラベル割当て不可と判断して（ステップS77）、処理を終了する。また、ツリーポインタで指されたノードが末端ノードでなければ、問い合わせされた経路はツリーに登録されていないので、同一ラベル割当て可と判断して（ステップS78）、処理を終了する。ステップS74において、検索リストが残っていなければ、ステップS76以降の処理を行う。

【0115】

例えば、図33の同一ラベル割当て不可経路ツリーが保持されているときに、経路#1-#2-#3-#4に関する問合せがあったとき、経路学習処理部25

は、対応するパスベクタ #3-#2-#1 を検索リストとして用いて、ツリーを検索する。

【0116】

まず、ツリーポインタがルートノード #4 を指しているとき、このノードは、検索リストの先頭のデータ #3 を子ノードとして持っているので、検索リストからデータ #3 が削除され、検索リストは #2-#1 のようになる。また、ツリーポインタは子ノード #3 に移動する。

【0117】

次に、ノード #3 は、検索リストの先頭のデータ #2 を子ノードとして持っているので、検索リストからデータ #2 が削除され、検索リストは #1 のようになる。また、ツリーポインタは子ノード #2 に移動する。そして、ノード #2 は末端ノードであるので、同一ラベル割当て不可と判断される。

【0118】

図 37 は、図 28 のステップ S61 において、経路登録要求を受け取った経路学習処理部 25 による同一ラベル割当て不可経路ツリーの登録処理のフローチャートである。経路学習処理部 25 は、まず、ツリーのルートノードをツリーポインタで指し（ステップ S81）、通知された経路に対応するラベル要求メッセージのパスベクタを登録リストとして用いて、ツリーポインタで指されたノードが、登録リストの先頭と一致する子ノードを持っているかどうかをチェックする（ステップ S82）。

【0119】

ツリーポインタで指されたノードがそのような子ノードを持っていれば、登録リストの先頭の LSR を削除し（ステップ S83）、一致した子ノードにツリーポインタを移動する（ステップ S84）。そして、登録リストが残っているかどうかをチェックし（ステップ S85）、登録リストが残っていれば、ステップ S82 以降の処理を繰り返す。

【0120】

ステップ S82 において、ツリーポインタで指されたノードが、登録リストの先頭と一致する子ノードを持っていなければ、登録リストの先頭を子ノードとし

て追加し（ステップ S 8 6）、ステップ S 8 3 以降の処理を行う。また、ステップ S 8 4 において、検索リストが残っていなければ、次に、ツリーポインタで指されたノードが末端ノードかどうかをチェックする（ステップ S 8 7）。

【0 1 2 1】

そして、ツリーポインタで指されたノードが末端ノードであれば、そのまま処理を終了する。また、そのノードが末端ノードでなければ、その子ノードをすべて削除して（ステップ S 8 8）、処理を終了する。

【0 1 2 2】

例えば、図 3 4 の同一ラベル割当て不可経路ツリーが保持されているときに、経路 # 3 - # 4 の登録要求を受け取ったとき、経路学習処理部 2 5 は、対応するパスベクタ # 3 を登録リストとして用いて、ツリーを検索する。

【0 1 2 3】

まず、ツリーポインタがルートノード # 4 を指しているとき、このノードは、登録リストの先頭のデータ # 3 を子ノードとして持っているので、登録リストからデータ # 3 が削除され、登録リストのデータはなくなる。また、ツリーポインタは子ノード # 3 に移動する。そして、ノード # 3 は末端ノードではないので、その子ノード # 2 と # 5 が削除され、図 3 5 のようなツリーが残される。

【0 1 2 4】

次に、図 3 8 から図 4 2 までを参照しながら、本発明の L S P 設定と従来の R I P を使用した L S P 設定において、必要となる L S P の数を比較してみる。

まず、入口 L S R と出口 L S R が直接接続されており、出口 L S R が m 個のネットワークを収容している場合、従来の R I P を使用した L S P 設定では、入口 L S R - 出口 L S R 間に設定される L S P の数は m 個である。これに対して、本発明の L S P 設定では、1 個で済むので、L S P の数は $1/m$ に削減される。

【0 1 2 5】

次に、より複雑なネットワーク構成における L S P の数を比較してみる。図 3 8 は、6 台の L S R をスター接続して M P L S ドメインを形成し、その周辺の各 L S R がそれぞれ m 個の非 M P L S ドメイン向けのネットワークを収容しているようなネットワーク構成を示している。ここで、問題をより一般化して、n 台の

LSRがスター接続された場合を考え、その中心となるLSR # 1に関して必要となるLSPの数を算出することにする。

【0126】

まず、従来のRIPを使用したLSP設定では、非MPLSドメイン向けのネットワーク同士の組合せの数は、 $m(n-1)C_2 = m(n-1) \{m(n-1) - 1\} / 2$ である。そのうち、同一LSR配下のネットワーク同士の組合せの数は、 $mC_2 \times (n-1) = m(m-1)(n-1) / 2$ である。したがって、LSR # 1において非MPLSドメイン向けに必要とする中継動作LSPの数は、次式により算出される。

$$\begin{aligned} & \text{中継動作LSP数} \\ &= [m(n-1) \{m(n-1) - 1\} / 2] \times 2 \\ & \quad - [m(m-1)(n-1) / 2] \times 2 \\ &= m^2 n^2 - 3m^2 n + 2m^2 \end{aligned} \quad (1)$$

また、非MPLSドメイン向けに必要とする入口動作LSPの数は、次式により算出される。

$$\begin{aligned} & \text{入口動作LSP数} \\ &= m(n-1) \end{aligned} \quad (2)$$

(1)、(2)式より、非MPLSドメイン向けに必要とするLSPの数は、次式のようにになる。

$$\begin{aligned} & m^2 (n^2 - 3n + 2) + m(n-1) \\ &= m^2 n^2 - 3m^2 n + mn + 2m^2 - m \end{aligned} \quad (3)$$

また、周辺のLSR # 2, . . . , LSR # nからMPLSドメイン内のネットワークに対するLSPに関しては、LSR # 1は出口動作を行うので、必要と

する L S P の数は次式により算出される。

$$\begin{aligned}
 & \text{出口動作 L S P 数} \\
 &= (n-2) \times (n-1) \\
 &= n^2 - 3n + 2
 \end{aligned} \tag{4}$$

よって、L S R # 1 が必要とする L S P の総数は、(3) 式と (4) 式の和で与えられ、次式のようにになる。

$$\begin{aligned}
 & m^2 n^2 - 3m^2 n + mn + 2m^2 - m + n^2 - 3n + 2 \\
 &= (m^2 + 1) n^2 - (3m^2 - m + 3) n + 2m^2 - m + 2
 \end{aligned} \tag{5}$$

これに対して、本発明の L S P 設定では、L S R # 1 において、他の L S R との間で送信用および受信用にそれぞれ 1 つの L S P を必要とするので、このために必要とする L S P の数は、次式により算出される。

$$\begin{aligned}
 & \text{入口動作 L S P 数} + \text{出口動作 L S P 数} \\
 &= (n-1) + (n-1) = 2n - 2
 \end{aligned} \tag{6}$$

また、L S R # 1 以外の L S R 同士の組合せの数は、 $(n-1)C_2 = (n-1)(n-2)/2$ なので、それらの L S R 間で中継動作を行うために必要となる L S P の数は、次式により算出される。

$$\begin{aligned}
 & \text{中継動作 L S P 数} \\
 &= [(n-1)(n-2)/2] \times 2 \\
 &= n^2 - 3n + 2
 \end{aligned} \tag{7}$$

よって、L S R # 1 が必要とする L S P の総数は、(6) 式と (7) 式の和で与えられ、次式のようにになる。

$$\begin{aligned}
 & 2n - 2 + n^2 - 3n + 2 \\
 & = n^2 - n
 \end{aligned}
 \tag{8}$$

図39は、 $m=5$ として、 $n=10, 20, 30, 40, 50$ の場合の従来技術および本発明のLSP数を算出した結果を示している。従来技術のLSP数は(5)式により算出され、本発明のLSP数は(8)式により算出されている。ここで、従来技術のLSP数/本発明のLSP数を a とおくと、本発明においては、LSP数が $1/a$ に削減されるため、ラベル検索テーブルの検索時間も同様の比率で短縮される。図39の結果を折れ線グラフで表すと、図40のようになる。

【0127】

また、図41は、 $m=10$ として、 $n=10, 20, 30, 40, 50$ の場合の従来技術および本発明のLSP数を算出した結果を示している。図41の結果を折れ線グラフで表すと、図42のようになる。

【0128】

図40および図42から分かるように、より複雑なネットワーク構成においても、本発明のLSP設定により、必要なLSPの数が大きく削減される。LSP数を減らすことにより、使用ラベル数が減少し、ラベル検索テーブルのエントリ数も減少するため、パケット転送時のラベル検索時間が短縮される。その結果、パケット転送処理にかかる負荷を軽減することが可能となる。

【0129】

図3の同一経路判別処理部28によるラベルテーブルの検索と、経路学習処理部25による同一ラベル割当て不可経路ツリーの検索は、LSPの設定時にのみ行われるため、これらの検索に要する時間は、パケットの転送時間には影響しない。

【0130】

また、本実施形態では、管理対象のLSPの数が少なくなるため、LSPの保守・管理が容易となり、ネットワーク全体を把握することが容易となる。例えば

、図 4 1 において、L S R 数が 1 0 の場合、必要な L S P 数は、従来技術では 7 3 6 2 になるのに対して、本発明では 9 0 である。また、設定可能な L S P 数が少ない安価な L S R を使用することができるので、システムの導入コスト削減が可能となる。

【 0 1 3 1 】

上述の実施形態では、主として、I P 網におけるパケット転送の例について説明したが、本発明は、それ以外の任意のラベルスイッチングネットワークにも適用可能である。

【 0 1 3 2 】

【発明の効果】

本発明によれば、ラベルスイッチングネットワークにおいて、使用ラベル数が削減され、パケット転送処理の負荷が軽減されるため、ネットワークの転送能力が向上する。したがって、運用時の管理が困難な O S P F の代わりに、比較的管理が容易な距離ベクタ型ルーティングプロトコルを用いて、実用的なラベルスイッチングネットワークを構築することが可能となる。また、L S P の保守・管理が容易となり、システムの導入コストが削減される。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明のバス設定装置の原理図である。

【図 2】

第 1 のラベル制御を示す図である。

【図 3】

第 2 のラベル制御を示す図である。

【図 4】

L S R の構成図である。

【図 5】

第 1 のネットワーク構成を示す図である。

【図 6】

第 1 のメッセージシーケンスを示す図である。

【図 7】

第 1 のラベルテーブルを示す図である。

【図 8】

第 1 のラベル検索テーブルを示す図である。

【図 9】

第 2 のラベルテーブルを示す図である。

【図 1 0】

M P L S 処理部による第 1 の処理のフローチャートである。

【図 1 1】

ラベル管理部による第 1 の処理のフローチャートである。

【図 1 2】

第 2 のネットワーク構成を示す図である。

【図 1 3】

第 2 のメッセージシーケンスを示す図である。

【図 1 4】

第 3 のラベルテーブルを示す図である。

【図 1 5】

第 2 のラベル検索テーブルを示す図である。

【図 1 6】

第 4 のラベルテーブルを示す図である。

【図 1 7】

ラベル - F E C テーブルを示す図である。

【図 1 8】

第 5 のラベルテーブルを示す図である。

【図 1 9】

第 3 のラベル検索テーブルを示す図である。

【図 2 0】

M P L S 処理部による第 2 の処理のフローチャートである。

【図 2 1】

ラベル管理部による第2の処理のフローチャートである。

【図22】

ラベル再割当て処理部の処理のフローチャートである。

【図23】

第3のメッセージシーケンスを示す図である。

【図24】

第1の同一ラベル割当て不可経路ツリーを示す図である。

【図25】

第7のラベルテーブルを示す図である。

【図26】

第5のラベル検索テーブルを示す図である。

【図27】

MPLS処理部による第3の処理のフローチャートである。

【図28】

別ラベル割当て処理部の処理のフローチャートである。

【図29】

第4のメッセージシーケンスを示す図である。

【図30】

第8のラベルテーブルを示す図である。

【図31】

第6のラベル検索テーブルを示す図である。

【図32】

第3のネットワーク構成を示す図である。

【図33】

第2の同一ラベル割当て不可経路ツリーを示す図である。

【図34】

第3の同一ラベル割当て不可経路ツリーを示す図である。

【図35】

第4の同一ラベル割当て不可経路ツリーを示す図である。

【図 3 6】

検索処理のフローチャートである。

【図 3 7】

登録処理のフローチャートである。

【図 3 8】

第 4 のネットワーク構成を示す図である。

【図 3 9】

第 1 の L S P 数を示す図である。

【図 4 0】

第 1 のグラフを示す図である。

【図 4 1】

第 2 の L S P 数を示す図である。

【図 4 2】

第 2 のグラフを示す図である。

【図 4 3】

従来の I P パケット転送を示す図である。

【図 4 4】

M P L S による I P パケット転送を示す図である。

【図 4 5】

ネットワークとコストを示す図である。

【図 4 6】

最短パスツリーを示す図である。

【図 4 7】

ルーティングテーブルを示す図である。

【符号の説明】

1、2、3、4 I P パケット

1 1 判別手段

1 2 ラベル割当て手段

2 1 M P L S 処理部

- 2 2 スイッチ設定部
- 2 3 ラベル管理部
- 2 4 ルーティングプロトコル処理部
- 2 5 経路学習処理部
- 2 6 ラベル再割当て処理部
- 2 7 別ラベル割当て処理部
- 2 8 同一経路判別処理部
- 3 1 媒体ドライブ
- 3 2 C P U
- 3 3 メモリ
- 3 4、3 6 回線インタフェース
- 3 5 スイッチ
- 3 7 検索 L S I
- 3 8 検索テーブルメモリ
- 3 9 記録媒体

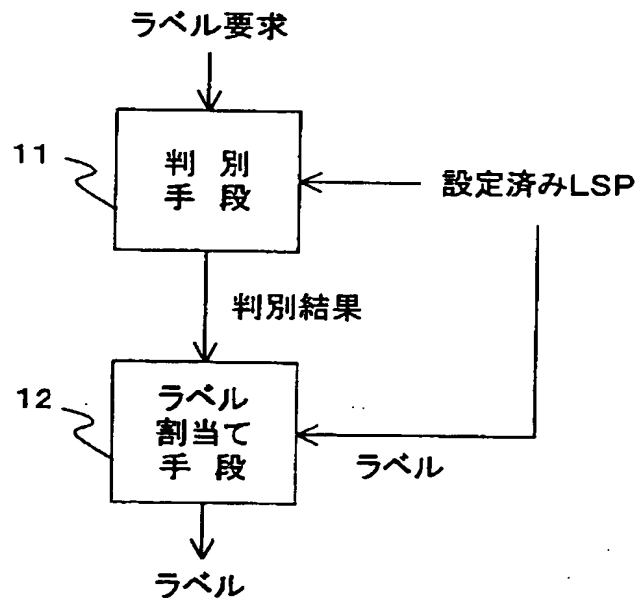
//

【書類名】

図面

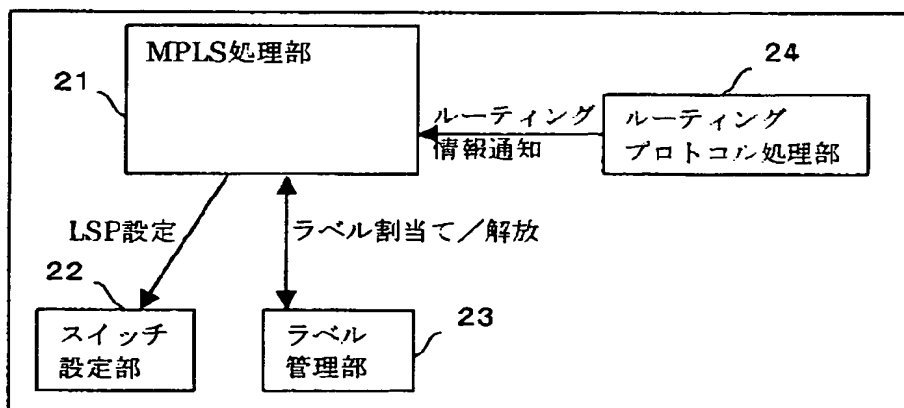
【図 1】

第 1 のラベル制御を示す図



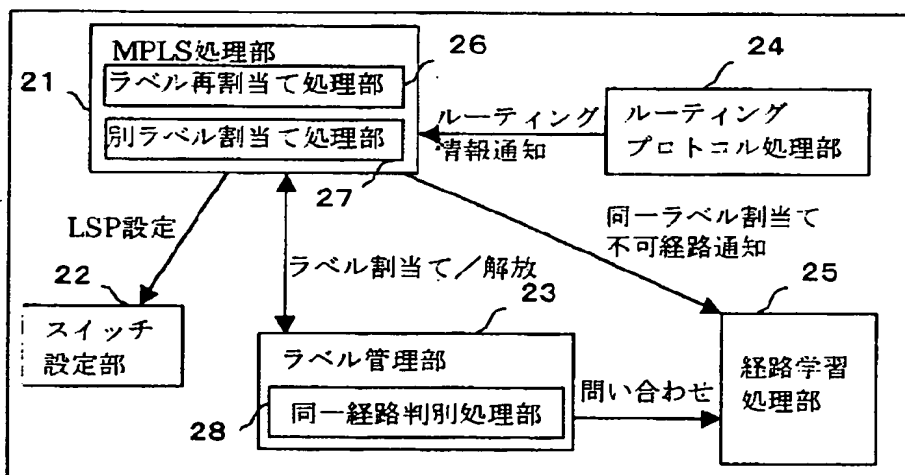
【図2】

第1のラベル制御を示す図



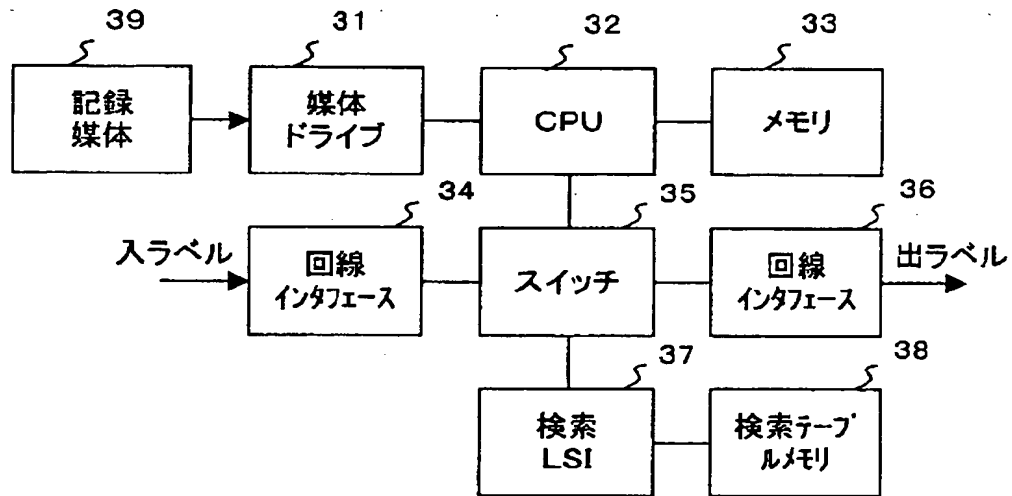
【図3】

第2のラベル制御を示す図



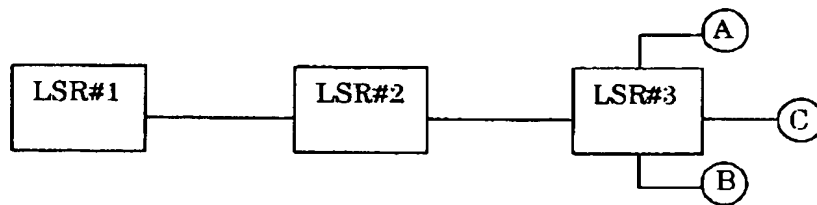
【図 4】

L S R の 構 成 図



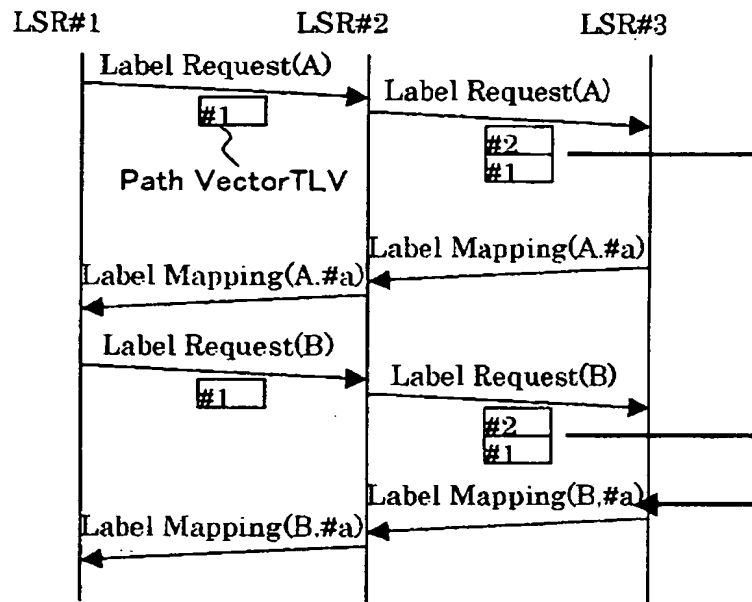
【図 5】

第 1 の ネットワーク 構 成 を 示 す 図



【図 6】

第 1 のメッセージシーケンスを示す図



【図 7】

第 1 のラベルテーブルを示す図

	ラベル	経路	FEC
LSR#1	—	—	—
LSR#2	—	—	—
LSR#3	#a	#1—#2—#3	A

【図 8】

第1のラベル検索テーブルを示す図

	入ラベル	出ラベル
LSR#1	—	#a
LSR#2	#a	#a
LSR#3	#a	—

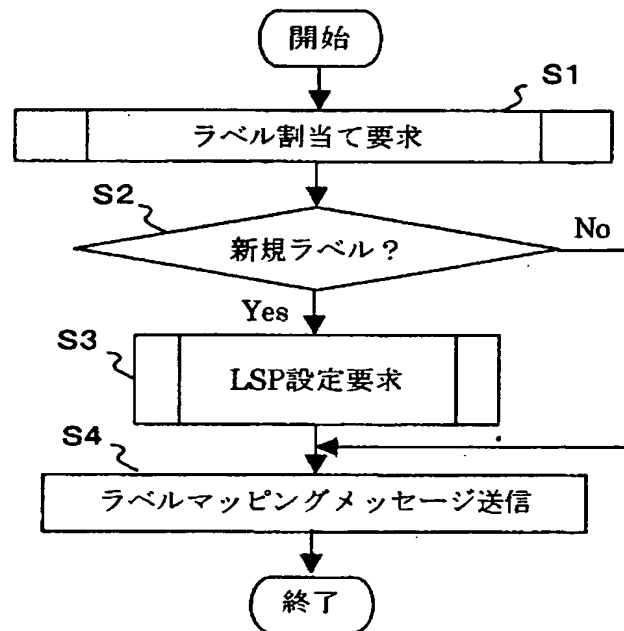
【図 9】

第2のラベルテーブルを示す図

	ラベル	経路	FEC
LSR#1	—	—	—
LSR#2	—	—	—
LSR#3	#a	#1—#2—#3	A, B

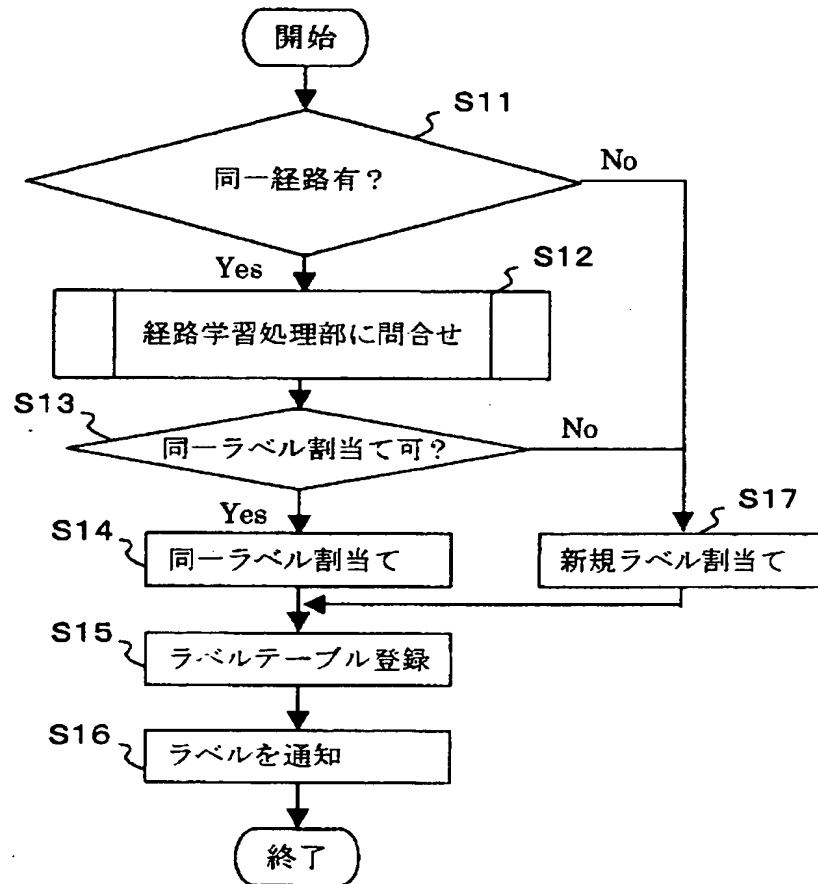
【図 1 0】

MPLS処理部による
第1の処理のフローチャート



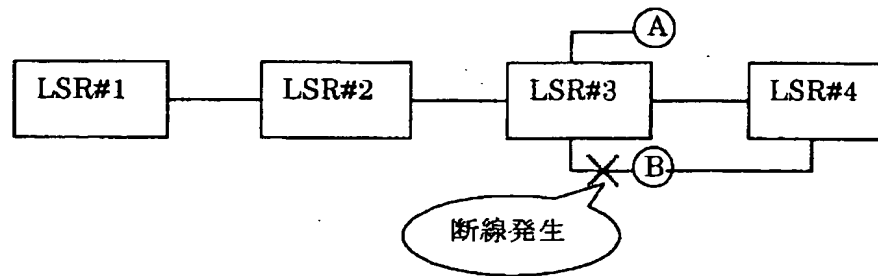
【図 11】

ラベル管理部による第1の処理のフローチャート



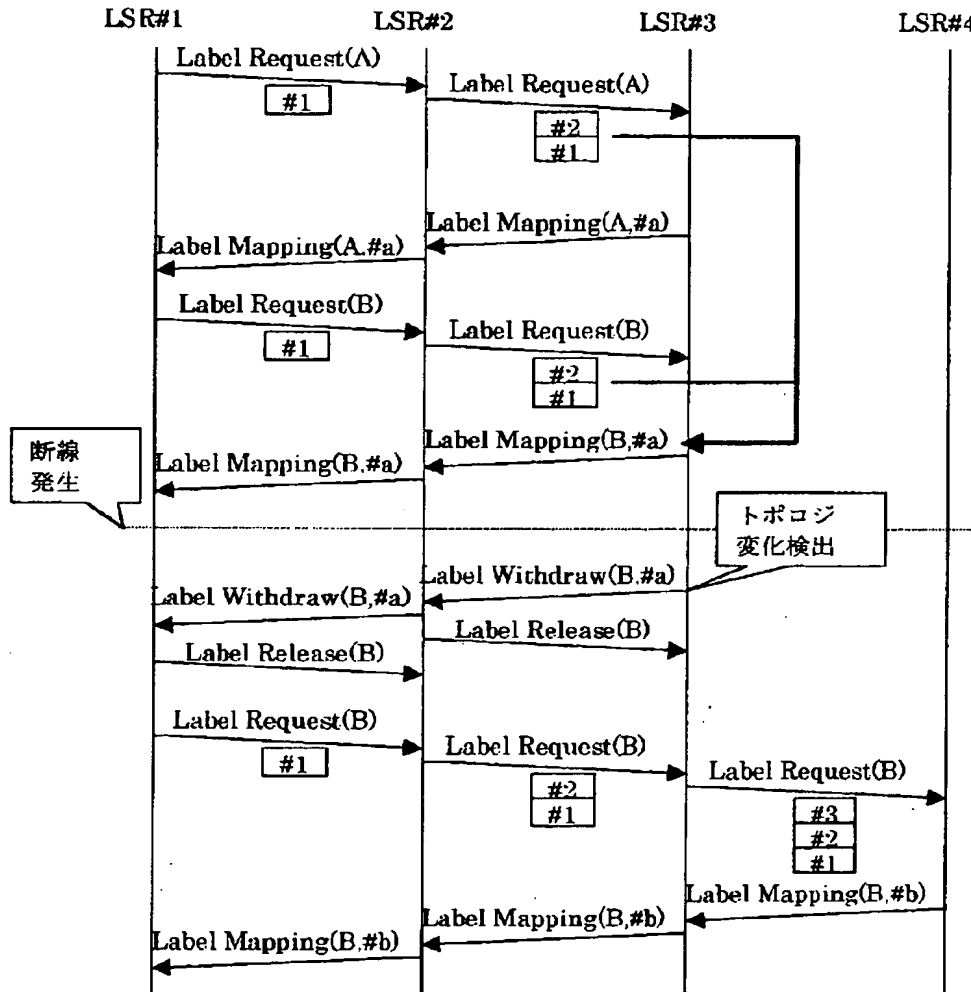
【図 1 2】

第 2 の ネットワーク 構 成 を 示 す 図



【図 13】

第 2 のメッセージシーケンスを示す図



【図 1 4】

第 3 のラベルテーブルを示す図

	ラベル	経路	FEC
LSR#1	—	—	—
LSR#2	—	—	—
LSR#3	#a	#1—#2—#3	A, B
LSR#4	—	—	—

【図 1 5】

第 2 のラベル検索テーブルを示す図

	入ラベル	出ラベル
LSR#1	—	#a
LSR#2	#a	#a
LSR#3	#a	—
LSR#4	—	—

【図16】

第4のラベルテーブルを示す図

	ラベル	経路	FEC
LSR#1	—	—	—
LSR#2	—	—	—
LSR#3	#a	#1—#2—#3	A
LSR#4	—	—	—

【図17】

ラベル—FECテーブルを示す図

ラベル	FEC
#a	A, B

【図 18】

第5のラベルテーブルを示す図

	ラベル	経路	FEC
LSR#1	—	—	—
LSR#2	—	—	—
LSR#3	#a	#1-#2-#3	A
LSR#4	#b	#1-#2-#3-#4	B

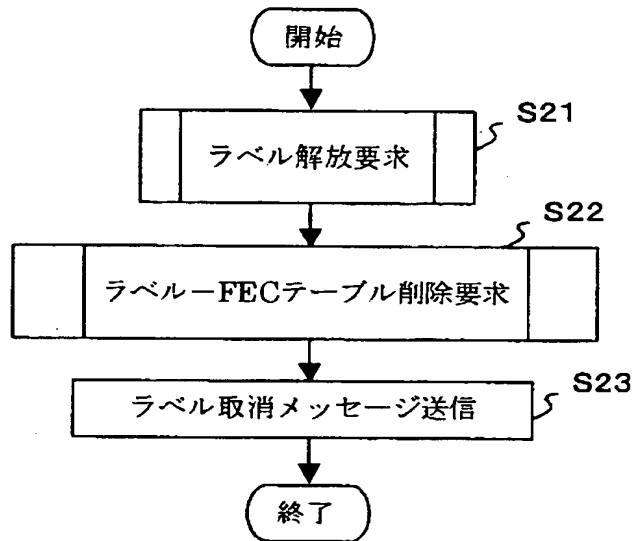
【図 19】

第3のラベル検索テーブルを示す図

	入ラベル	出ラベル
LSR#1	—	#a
	—	#b
LSR#2	#a	#a
	#b	#b
LSR#3	#a	—
	#b	#b
LSR#4	—	—
	#b	—

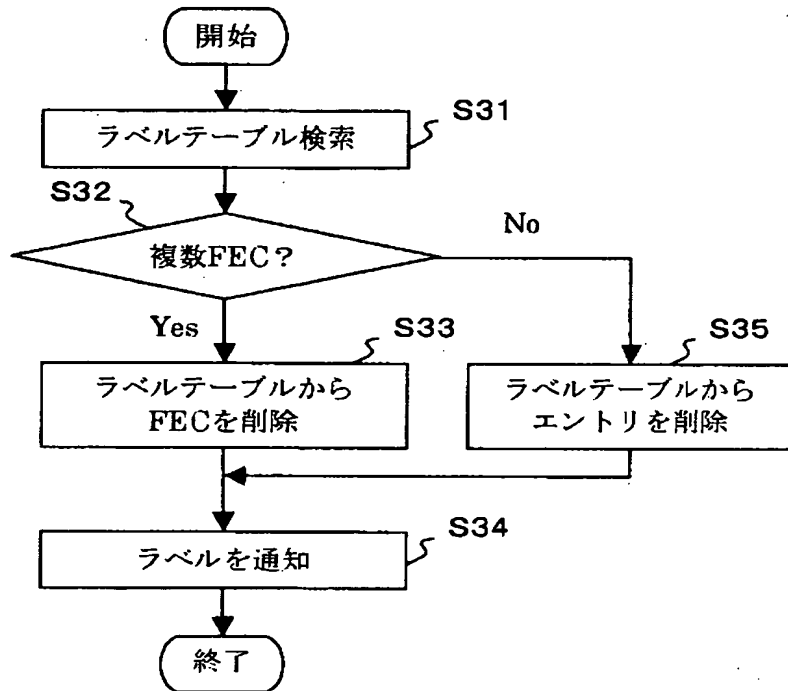
【図 2 0】

MPLS処理部による
第2の処理のフローチャート



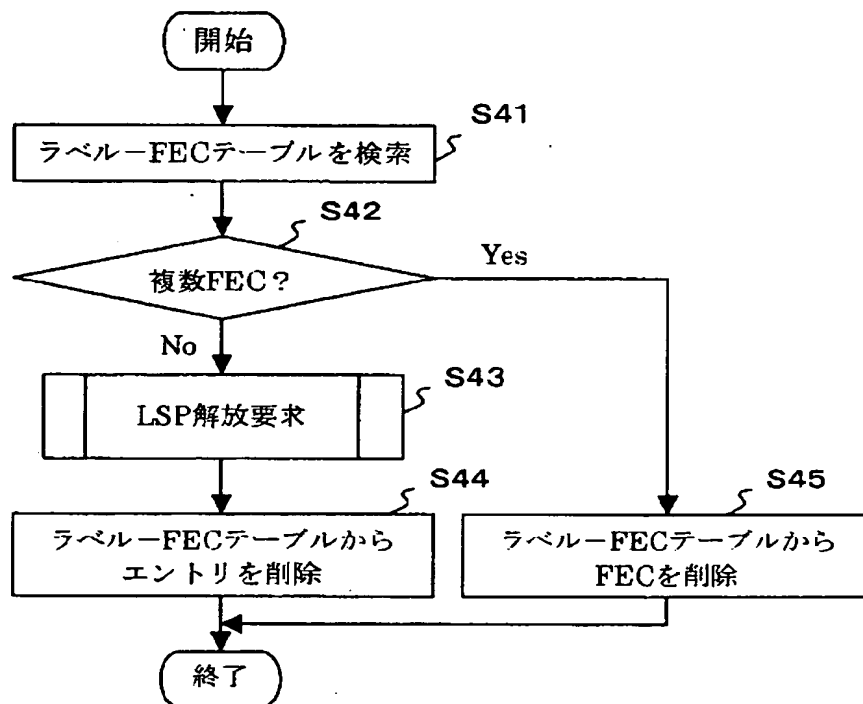
【図 21】

ラベル管理部による
第2の処理のフローチャート



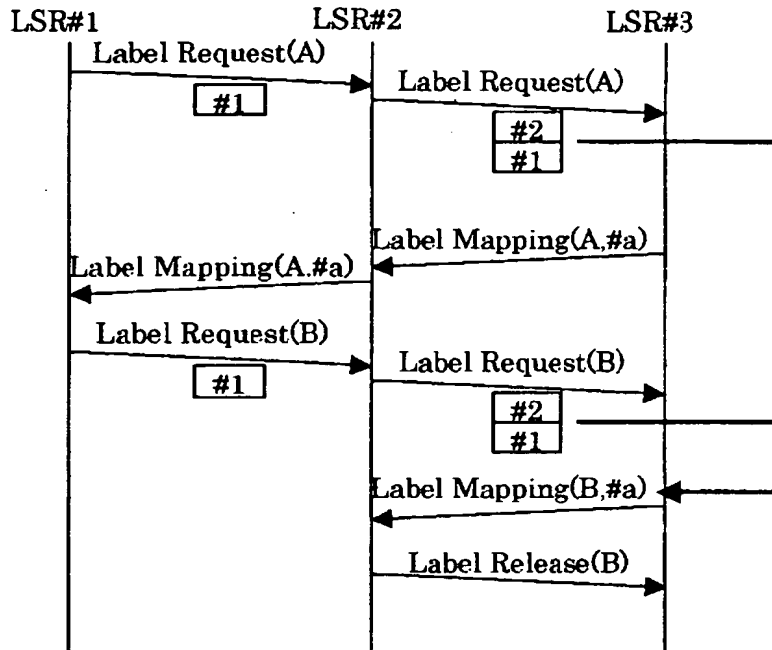
【図 2 2】

ラベル再割当て処理部の処理のフローチャート



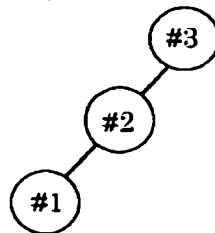
【図 2 3】

第 3 のメッセージシーケンスを示す図



【図 2 4】

第1の同一ラベル割当て
不可経路ツリーを示す図



【図 2 5】

第 7 のラベルテーブルを示す図

	ラベル	経路	FEC
LSR#1	—	—	—
LSR#2	—	—	—
LSR#3	#a	#1—#2—#3	A
	#b	#1—#2—#3	B

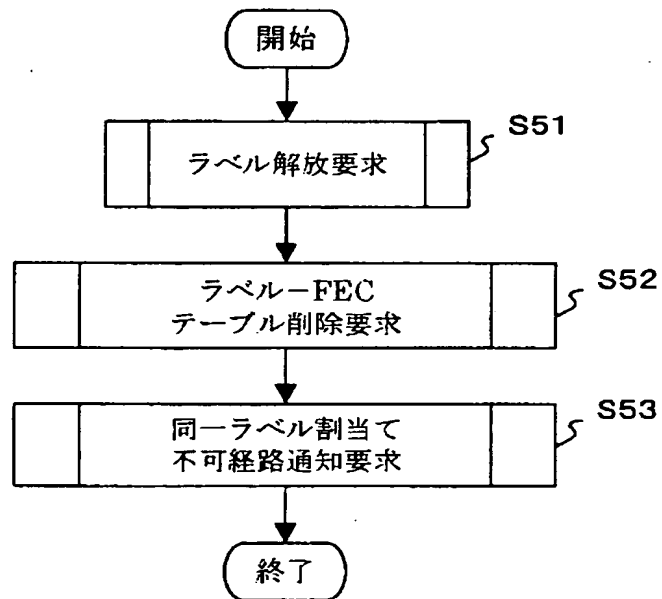
【図 2 6】

第 5 のラベル検索テーブルを示す図

	入ラベル	出ラベル
LSR#1	—	#a
	—	#b
LSR#2	#a	#a
	#b	#b
LSR#3	#a	—
	#b	—

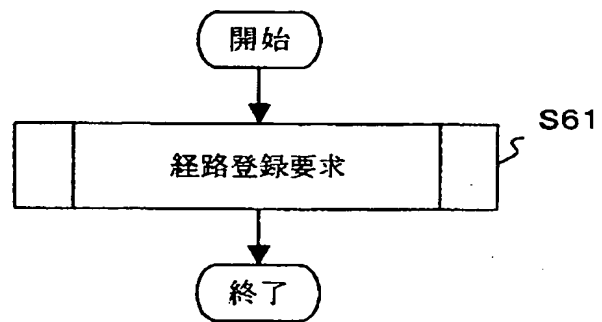
【図 27】

MPLS部による
第3の処理のフローチャート



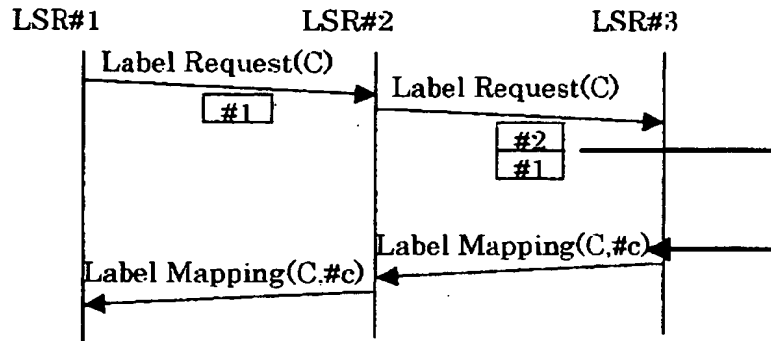
【図 2 8】

別ラベル割当て処理部の
処理のフローチャート



【図 29】

第 4 のメッセージシーケンスを示す図



【図 3 0】

第 8 のラベルテーブルを示す図

	ラベル	経路	FFC
LSR#1	—	—	—
LSR#2	—	—	—
LSR#3	#a	#1—#2—#3	A
	#b	#1—#2—#3	B
	#c	#1—#2—#3	C

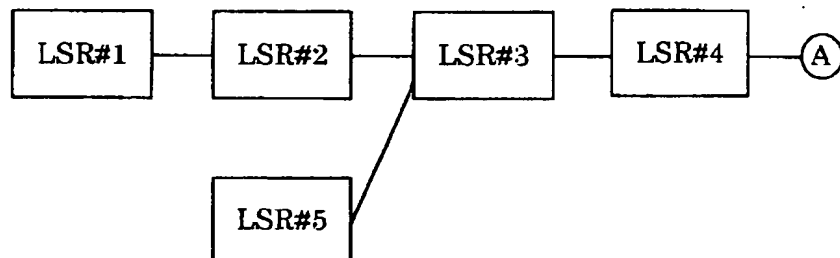
【図 3 1】

第6のラベル検索テーブルを示す図

	入ラベル	出ラベル
LSR#1	—	#a
	—	#b
	—	#c
LSR#2	#a	#a
	#b	#b
	#c	#c
LSR#3	#a	—
	#b	—
	#c	—

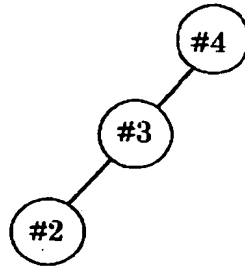
【図 3 2】

第3のネットワーク構成を示す図



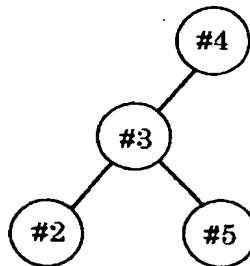
【図 3 3】

第2の同一ラベル割当て不可
経路ツリーを示す図



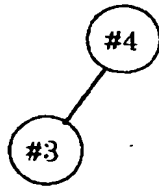
【図 3 4】

第3の同一ラベル割当て不可
経路ツリーを示す図



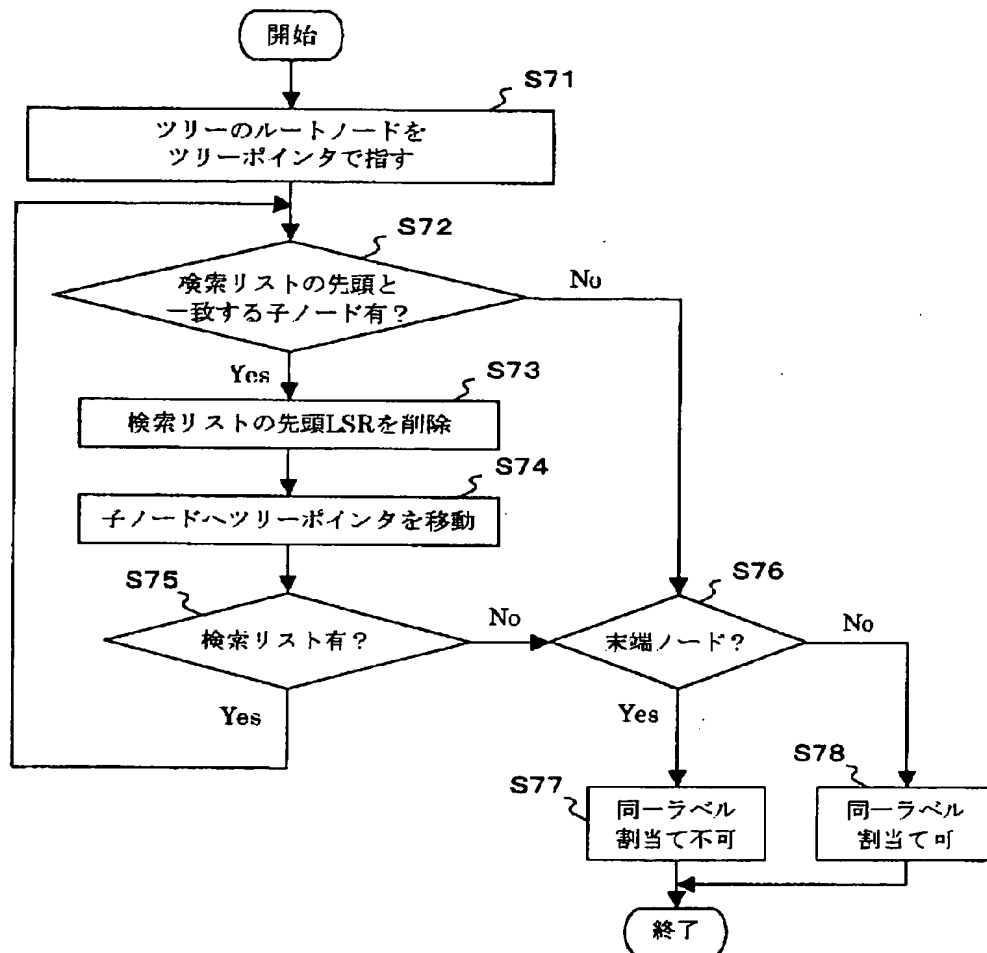
【図 3 5】

第4の同一ラベル割当て不可
経路ツリーを示す図



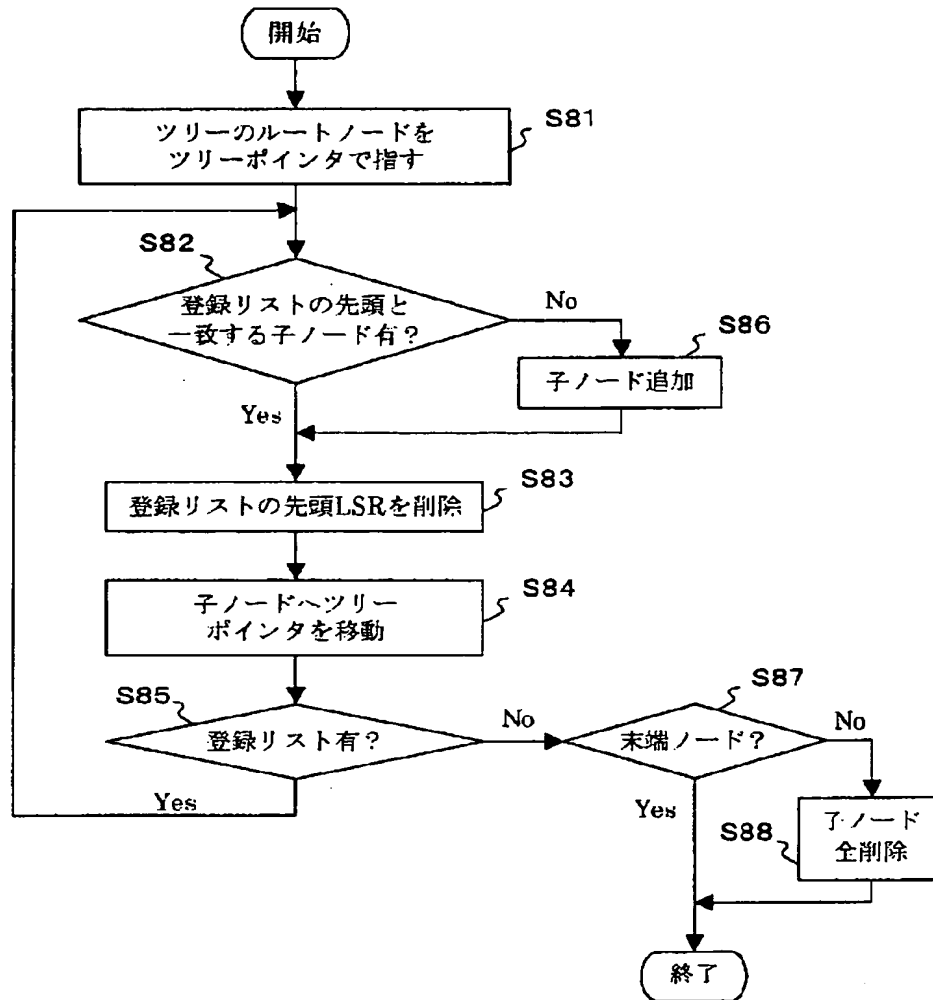
【図 36】

検 索 処 理 の フ ロ ー チ ャ ー ト



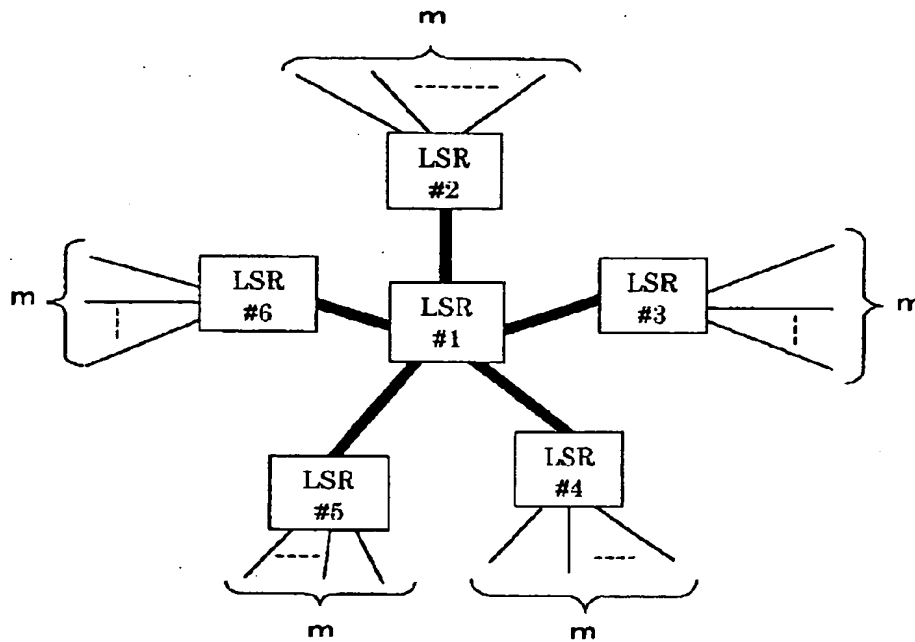
【図 37】

登録処理のフローチャート



【図 38】

第 4 の ネットワーク 構成 を 示 す 図



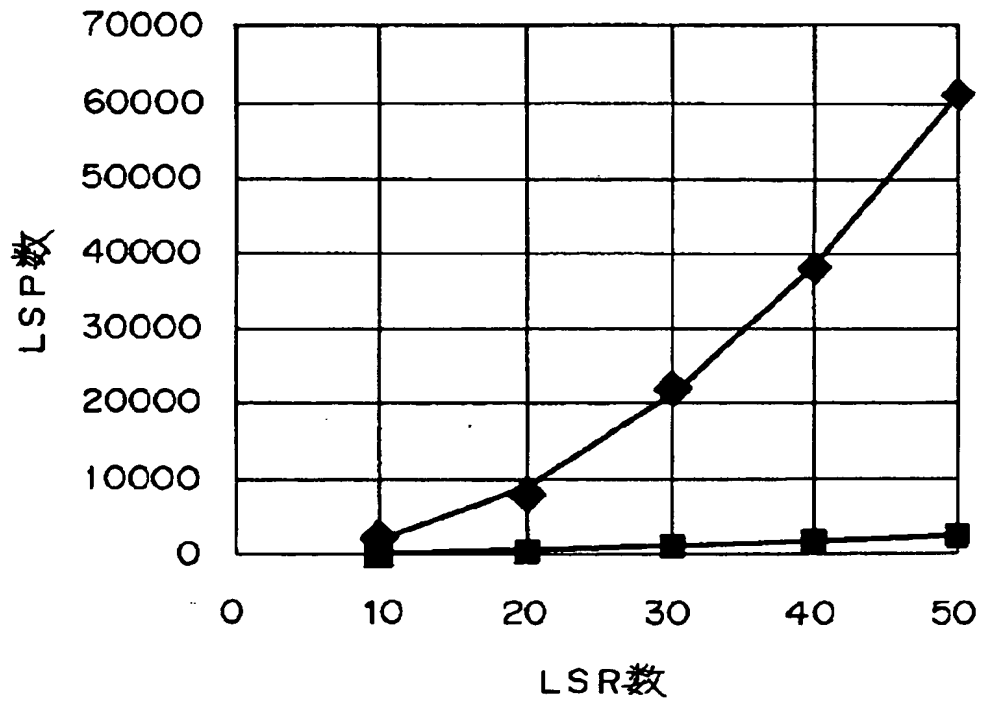
【図 3 9】

第1のLSP数を示す図

LSR数	10	20	30	40	50
従来技術	1917	8987	21257	38727	61397
本発明	90	380	870	1560	2450
従来技術／本発明(a)	21.3	23.7	24.4	24.8	25.1

【図 4 0】

第1のグラフを示す図



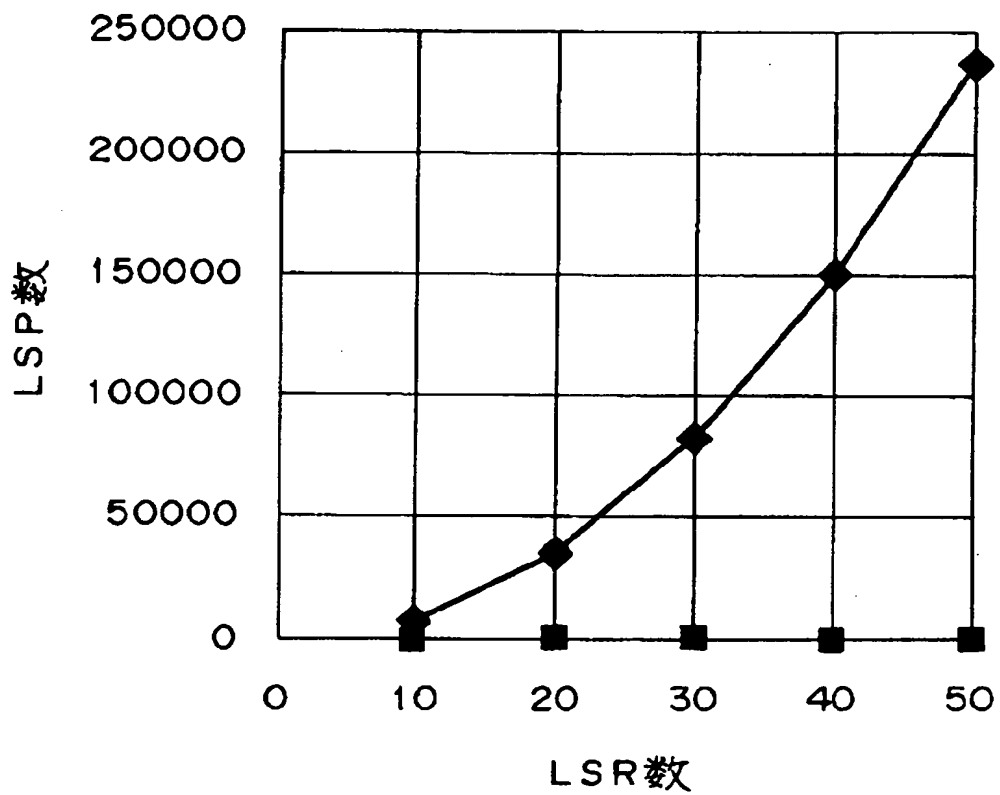
【図 4 1】

第2のLSP数を示す図

LSR数	10	20	30	40	50
従来技術	7362	34732	82302	150072	238042
本発明	90	380	870	1560	2450
従来技術／本発明(a)	81.8	91.4	94.6	96.2	97.2

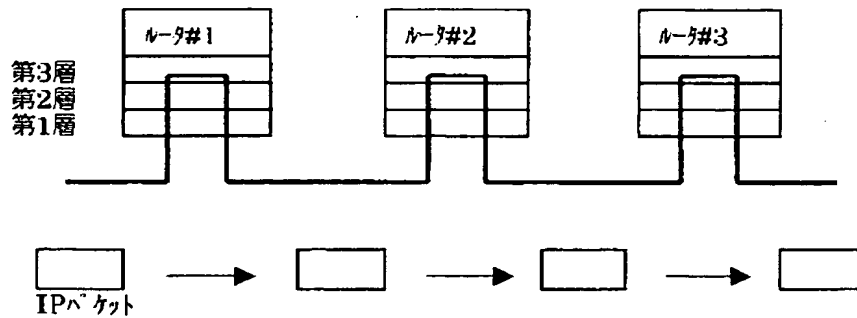
【図 4 2】

第2のグラフを示す図



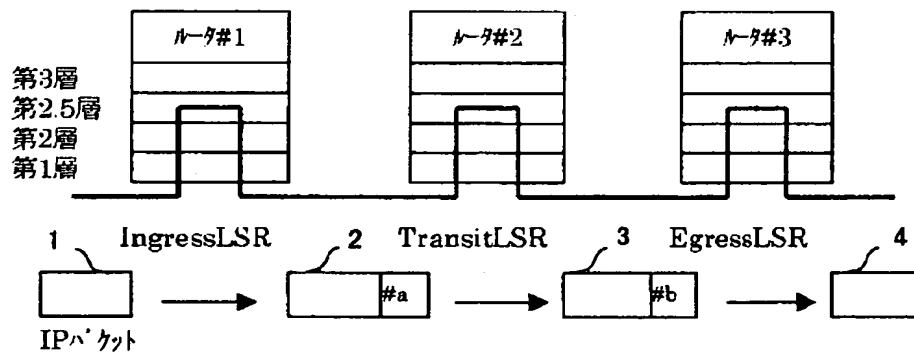
【図 4 3】

従来の IP パケット転送を示す図



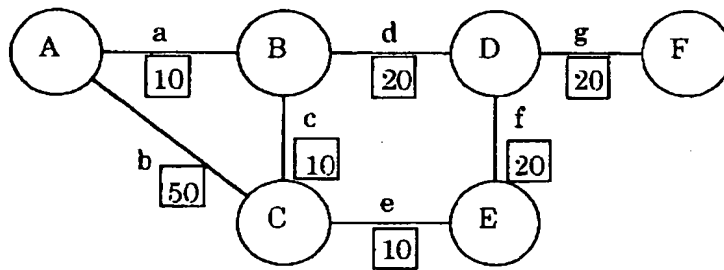
【図 4 4】

MPLS による IP パケット転送を示す図



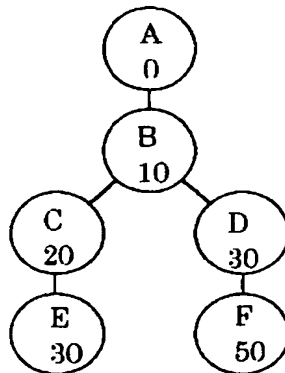
【図 4 5】

ネットワークとコストを示す図



【図 4 6】

最短パスツリーを示す図



【図 47】

ルーティングテーブルを示す図

宛先 ネットワーク	次ホップ	コスト
a	—	1
b	—	1
c	B	2
d	B	2
e	C	2
f	B	3
g	B	3

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 距離ベクタ型ルーティングプロトコルを用いるラベルスイッチングネットワークにおいて、使用ラベル数を削減することにより転送能力を向上させることが課題である。

【解決手段】 新たなフローに対するラベル要求を受信すると、ラベル管理部 2 3 の同一経路判別処理部 2 8 は、既に設定済みのラベルスイッチドパス（L S P）を検索して、その経路とラベル要求に含まれる経路とを比較する。ラベル要求と同一経路の L S P が存在すれば、ラベル管理部 2 3 は、その L S P と同一のラベルを割り当て、そのような L S P が存在しなければ、新たなラベルを割り当てる。スイッチ設定部 2 2 は、ラベル管理部 2 3 が割り当てたラベルに基づいて、L S P を設定する。

【選択図】 図 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

1. 変更年月日 1996年 3月26日
[変更理由] 住所変更
住 所 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号
氏 名 富士通株式会社